

新専門医制度 内科専門  
研修プログラム  
福岡大学  
筑紫病院

【2025 年度専攻医募集用】

# 1. 理念・使命・特性

## 理念

- 1) 本プログラムは、福岡県筑紫医療圏の中心的な急性期病院である福岡大学筑紫病院を基幹施設として、福岡県筑紫医療圏・全国の医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を経て福岡県の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され、基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として福岡県全域を支える内科専門医の育成を行います。
- 2) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での3年間（基幹施設2年間＋連携・特別連携施設1年間）に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度[研修カリキュラム](#)に定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。  
内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系 **Subspecialty** 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力です。また、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナルリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です。内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験が加わることに特徴があります。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察を含めて記載し、複数の指導医による指導を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することを可能とします。

## 使命

- 1) 福岡県筑紫医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として、1) 高い倫理観を持ち、2) 最新の標準的医療を実践し、3) 安全な医療を心がけ、4) プロフェッショナルリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います。
- 2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医は常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて、地域住民、日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います。
- 3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。
- 4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。

## 特性

- 1) 本プログラムにおいては、福岡県筑紫医療圏の中心的な急性期病院である福岡大学筑紫病院を基幹施設として、近隣医療圏および鹿児島、熊本、山形にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように修練できます。研修期間は基本的には基幹施設2年間+連携施設・特別連携施設1年間の3年間になります。
- 2) 福岡大学筑紫病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立てて実行する能力の修得をもって目標への到達とします。
- 3) 基幹施設である福岡大学筑紫病院は、福岡県筑紫医療圏の中心的な急性期病院です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や・地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。
- 4) 基幹施設である福岡大学筑紫病院での2年間（専攻医2年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群のうち、少なくとも45疾患群、120症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システムに登録できます。そして、専攻医2年修了時点で、指導医による形式的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる29症例の病歴要約を作成できます（P.59別表1「福岡大学筑紫病院 疾患群 症例 病歴要約 到達目標」参照）。
- 5) 福岡大学筑紫病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、専門研修3年目の1年間、地域における立場や役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。
- 6) 基幹施設である福岡大学筑紫病院での2年間と専門研修施設群での1年間（専攻医3年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群のうち、少なくとも通算で56疾患群、160症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システムに登録できます。可能な限り、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群、200症例以上の経験を目標とします（別表1「福岡大学筑紫病院 疾患群 症例 病歴要約 到達目標」参照）。

### 専門研修後の成果

内科専門医の使命は、1) 高い倫理観を持ち、2) 最新の標準的医療を実践し、3) 安全な医療を心がけ、4) プロフェッショナルリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。

内科専門医のかかわる場は多岐にわたりますが、それぞれの場に応じて、

- 1) 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
- 2) 内科系救急医療の専門医
- 3) 病院での総合内科（Generality）の専門医
- 4) 総合内科的視点を持った Subspecialist

に合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得します。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります。

福岡大学筑紫病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として内科医としてのプロフェッショナルリズムの涵養とGeneralなマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして、福岡県筑紫医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また、希望者はSubspecialty領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果です。



## 2. 募集専攻医数

下記 1)～7)により、福岡大学筑紫病院内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は1学年8名とします。

- 1) 福岡大学筑紫病院内科後期研修医は現在3学年併せて7名で1学年1～4名の実績があります。
- 2) 剖検体数は2022年度3体、2023年度3体です。

表. 福岡大学筑紫病院診療科別診療実績

2023年度実績	入院患者実数 (人/年度)	外来延患者数 (延人数/年度)
消化器内科	2,505	32,262
循環器内科・腎臓内科	751	8,573
内分泌内科・糖尿病内科	269	12,389
腎臓内科	17	1,243
呼吸器内科	601	6,744
脳神経内科	339	4,648
血液内科・膠原病科	0	0
救急・総合診療科	13	410

- 3) 血液、膠原病は当院に設置されていませんが、連携施設で外来患者診療を含め、十分な症例を経験可能です。
- 4) 総合内科、消化器、循環器、内分泌・糖尿病、腎臓、呼吸器、脳神経内科、救急領域の専門医が少なくとも1名以上在籍しています(P.14「福岡大学筑紫病院内科専門研修施設群」参照)。
- 5) 1学年4名までの専攻医であれば、専攻医2年修了時に「[研修手帳\(疾患群項目表\)](#)」に定められた45疾患群、120症例以上の診療経験と29病歴要約の作成は達成可能です。
- 6) 専攻医3年目に研修する連携施設・特別連携施設には、高次機能・専門病院5施設、地域基幹病院および地域医療密着型病院12施設、計17施設あり、専攻医のさまざまな希望・将来像に対応可能です。
- 7) 専攻医3年修了時に「[研修手帳\(疾患群項目表\)](#)」に定められた少なくとも56疾患群、160症例以上の診療経験は達成可能です。

## 3. 専門知識・専門技能とは

- 1) 専門知識 [「[内科研修カリキュラム項目表](#)」参照]

専門知識の範囲(分野)は、「総合内科」、「消化器」、「循環器」、「内分泌」、「代謝」、「腎臓」、「呼吸器」、「血液」、「神経」、「アレルギー」、「膠原病および類縁疾患」、「感染症」、ならびに「救急」で構成されます。

「[内科研修カリキュラム項目表](#)」に記載されている、これらの分野における「解剖と機能」、「病態生理」、「身体診察」、「専門的検査」、「治療」、「疾患」などを目標(到達レベル)とします。

- 2) 専門技能 [「[技術・技能評価手帳](#)」参照]

内科領域の「技能」は、幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します。さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他のSubspecialty専門医へのコンサルテーション能力とが加わります。これらは、特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません。

## 4. 専門知識・専門技能の習得計画

- 1) 到達目標 (P.59別表1「福岡大学筑紫病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照)

主担当医として「[研修手帳\(疾患群項目表\)](#)」に定める全70疾患群を経験し、200症例以上経験することを目標とします。内科領域研修を幅広く行うため、内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります。そこで、専門研修(専攻医)年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します。

○専門研修（専攻医）1年：

- ・症例：「[研修手帳（疾患群項目表）](#)」に定める70疾患群のうち、少なくとも20疾患群、60症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システムにその研修内容を登録します。以下、全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われます。
- ・専門研修修了に必要な病歴要約を10症例以上記載して日本内科学会専攻医登録評価システムに登録します。
- ・技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、Subspecialty 上級医とともに行うことができます。
- ・態度：専攻医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる360度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います。

○専門研修（専攻医）2年：

- ・症例：「[研修手帳（疾患群項目表）](#)」に定める70疾患群のうち、通算で少なくとも45疾患群、120症例以上の経験をし、日本内科学会専攻医登録評価システムにその研修内容を登録します。
- ・専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載して日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称）への登録を終了します。
- ・技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、Subspecialty 上級医の監督下で行うことができます。
- ・態度：専攻医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる360度評価とを複数回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）1年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

○専門研修（専攻医）3年：

- ・症例：主担当医として「[研修手帳（疾患群項目表）](#)」に定める全70疾患群を経験し、200症例以上経験することを目標とします。修了認定には、主担当医として通算で最低56疾患群以上の経験と計160症例以上（外来症例は1割まで含むことができます）を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システムにその研修内容を登録します。
- ・専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを指導医が確認します。
- ・既に専門研修2年次までに登録を終えた病歴要約は、日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）による査読を受けます。査読者の評価を受け、形式的により良いものへ改訂します。但し、改訂に値しない内容の場合は、その年度の受理（アクセプト）を一切認められないことに留意します。
- ・技能：内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うことができます。
- ・態度：専攻医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる360度評価とを複数回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）2年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。また、内科専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図ります。

専門研修修了には、すべての病歴要約29症例の受理と、少なくとも70疾患群中の56疾患群以上で計160症例以上の経験を必要とします。日本内科学会専攻医登録評価システムにおける研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します。

福岡大学筑紫病院内科施設群専門研修では、「[研修カリキュラム項目表](#)」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は3年間（基幹施設2年間＋連携・特別連携施設1年間）とするが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を1年単位で延長します。一方でカリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的にSubspecialty 領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます。

## 2) 臨床現場での学習

内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます。内科領域を 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します（下記 1）～ 5）参照）。この過程によって専門医に必要な知識、技術・技能を修得します。代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します。また、自らが経験することのできなかつた症例については、カンファレンスや自己学習によって知識を補足します。これらを通じて、遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします。

- ① 内科専攻医は、担当指導医もしくは **Subspecialty** の上級医の指導の下、主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて、内科専門医を目指して常に研鑽します。主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。
- ② 定期的（毎週 1 回）に開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて、担当症例の病態や診断過程の理解を深め、多面的な見方や最新の情報を得ます。また、プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます。
- ③ 総合内科外来（初診を含む）と **Subspecialty** 診療科外来（初診を含む）を少なくとも週 1 回、1 年以上担当医として経験を積みみます。
- ④ 救命救急センターの内科外来（平日夕方）で内科領域の救急診療の経験を積みみます。
- ⑤ 当直医として病棟急変などの経験を積みみます。
- ⑥ 適宜、**Subspecialty** 診療科検査を担当します。

## 3) 臨床現場を離れた学習

1) 内科領域の救急対応、2) 最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解、3) 標準的な医療安全や感染対策に関する事項、4) 医療倫理、医療安全、感染防御、臨床研究や利益相反に関する事項、5) 専攻医の指導・評価方法に関する事項、などについて、以下の方法で研鑽します。

- ① 定期的（毎週 1 回程度）に開催する各診療科での抄読会
- ② 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会（2023 年度実績 8 回）  
※内科専攻医は年に 2 回以上受講します。
- ③ **CPC**（2023 年度実績 4 回）
- ④ 研修施設群合同カンファレンス
- ⑤ 地域参加型のカンファレンス（基幹施設：福岡消化器病研究会、福岡 NST 研究会、福岡循環器救急カンファレンス、九州肺癌カンファレンス、糖尿病と心血管障害を考える会 他；2023 年度実績 89 回）
- ⑥ **JMECC** 受講  
※内科専攻医は必ず専門研修 1 年もしくは 2 年までに 1 回受講します。
- ⑦ 内科系学術集会（下記「7. 学術活動に関する研修計画」参照）
- ⑧ 各種指導医講習会/JMECC 指導者講習会

など

## 4) 自己学習

「[研修カリキュラム項目表](#)」では、知識に関する到達レベルを A（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）と B（概念を理解し、意味を説明できる）に分類、技術・技能に関する到達レベルを A（複数回の経験を経て、安全に実施できる、または判定できる）、B（経験は少数例ですが、指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる、または判定できる）、C（経験はないが、自己学習で内容と判断根拠を理解できる）に分類、さらに、症例に関する到達レベルを A（主担当医として自ら経験した）、B（間接的に経験している（実症例をチームとして経験した、または症例検討会を通して経験した）、C（レクチャー、セミナー、学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した）と分類しています。（「[研修カリキュラム項目表](#)」参照）

自身の経験がなくても自己学習すべき項目については、以下の方法で学習します。

- ① 内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信
- ② 日本内科学会雑誌にある MCQ
- ③ 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題など

## 5) 研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム

日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて、以下を web ベースで日時を含めて記録します。

- 専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に、通算で最低 56 疾患群以上 160 症例の研修内容を登録します。指導医はその内容を評価し、合格基準に達

したと判断した場合に承認を行います。

- 専攻医による逆評価を入力して記録します。
- 全29症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し、専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を受理（アクセプト）されるまでシステム上で行います。
- 専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します。
- 専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します。

## 5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス

福岡大学筑紫病院内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要は、施設ごとに実績を記載した(P.14「福岡大学筑紫病院内科専門研修施設群」参照)。

プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である福岡大学筑紫病院臨床研修センターが把握し、定期的にE-mailなどで専攻医に周知し、出席を促します。

## 6. リサーチマインドの養成計画

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず、これらを自ら深めてゆく姿勢です。この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります。

福岡大学筑紫病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設、特別連携施設のいずれにおいても、

- ① 患者から学ぶという姿勢を基本とする。
- ② 科学的な根拠に基づいた診断、治療を行う（EBM：evidence-based medicine）。
- ③ 最新の知識、技能を常にアップデートする（生涯学習）。
- ④ 診断や治療のevidenceの構築・病態の理解につながる研究を行う。
- ⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨く。

といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します。

併せて、

- ① 初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う。
- ② 後輩専攻医の指導を行う。
- ③ メディカルスタッフを尊重し、指導を行う。

を通じて、内科専攻医としての教育活動を行います。

## 7. 学術活動に関する研修計画

福岡大学筑紫病院内科専門研修施設群は基幹病院、連携病院、特別連携病院のいずれにおいても、

- ① 内科系の学術集会や企画に年2回以上参加します（必須）。  
※ 日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC および内科系Subspecialty学会の学術講演会・講習会を推奨します。
- ② 経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行います。
- ③ 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います。
- ④ 内科学に通じる基礎研究を行います。

を通じて、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。

内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者2件以上行います。

なお、専攻医が、社会人大学院などを希望する場合でも、福岡大学筑紫病院内科専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します。

## 8. コア・コンピテンシーの研修計画

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で、知識、技能、態度が複合された能力です。これは観察可能であることから、その習得を測定し、評価することが可能です。その中で共通・中核となる、コア・コンピテンシーは倫理観・社会性です。

福岡大学筑紫病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設、特別連携施設のいずれにおいても指導医、Subspecialty 上級医とともに下記①～⑩について積極的に研鑽する機会を与えます。

プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である福岡大学筑紫病院臨床研修センターが把握し、定期的にE-mailなどで専攻医に周知し、出席を促します。

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します。



- ① 患者とのコミュニケーション能力
- ② 患者中心の医療の実践
- ③ 患者から学ぶ姿勢
- ④ 自己省察の姿勢
- ⑤ 医の倫理への配慮
- ⑥ 医療安全への配慮
- ⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナルリズム）
- ⑧ 地域医療保健活動への参画
- ⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
- ⑩ 後輩医師への指導

※ 教える事が学ぶ事につながる経験を通し、先輩からだけでなく後輩、医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます。

## 9. 地域医療における施設群の役割

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。福岡大学筑紫病院内科専門研修施設群研修施設は福岡県筑紫医療圏、近隣医療圏および鹿児島市内の医療機関から構成されています。福岡大学筑紫病院は、福岡県筑紫医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域医療支援病院であり地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディージーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設、特別連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせて、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院である福岡大学病院、福岡大学西新病院、熊本大学病院、山形大学医学部附属病院、今給黎総合病院、田川市立病院、戸畑共立病院、佐賀大学医学部附属病院、地域基幹病院である芦屋中央病院、佐田厚生会佐田病院、九州中央病院、長崎壱岐病院、糸島医師会病院および地域医療密着型病院である田主丸中央病院、福岡青洲会病院、新行橋病院、小波瀬病院、京都病院、行橋中央病院、社会保険直方病院で構成しています。

高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。

地域基幹病院では、福岡大学筑紫病院と異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。地域医療密着型病院では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修します。

福岡大学筑紫病院内科専門研修施設群 (P.14) は、福岡県筑紫医療圏、近隣医療圏および福岡市内の医療機関から構成しています。最も距離が離れている今給黎総合病院は鹿児島市内にあります。

## 10. 地域医療に関する研修計画

福岡大学筑紫病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています。福岡大学筑紫病院内科施設群専門研修では、主担当医として診療・経験する患者を通じて、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。



## 11. 内科専攻医研修（モデル）

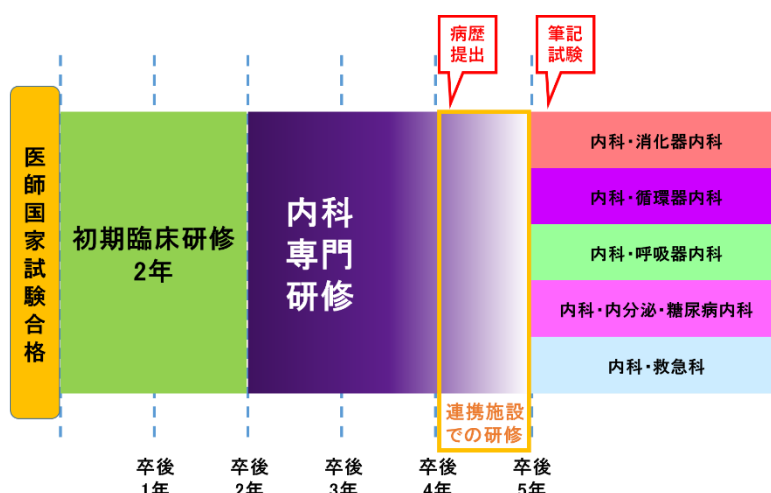


図1. 福岡大学筑紫病院内科専門研修プログラム（概念図）

基幹施設である福岡大学筑紫病院内科で、専門研修（専攻医）1年目、2年目に2年間の専門研修を行います。専攻医2年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）などを基に、専門研修（専攻医）3年目の研修施設を調整し決定します。病歴提出を終える専門研修（専攻医）3年目の1年間、連携施設、特別連携施設で研修をします（図1）。なお、研修達成度によってはSubspecialty研修も可能です（個々人により異なります）。

## 12. 専攻医の評価時期と方法

### (1) 福岡大学筑紫病院臨床研修センターの役割

- 福岡大学筑紫病院内科専門研修管理委員会の事務局となります。
- 福岡大学筑紫病院内科専門研修プログラム開始時に、各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について日本内科学会専攻医登録評価システムの研修手帳Web版を基にカテゴリー別の充足状況を確認します。
- 3か月ごとに研修手帳Web版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による研修手帳Web版への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- 6か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- 6か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
- 年に複数回（8月と2月、必要に応じて臨時に）、専攻医自身の自己評価を行います。その結果は日本内科学会専攻医登録評価システムを通じて集計され、1か月以内に担当指導医によって専攻医に形式的にフィードバックを行って、改善を促します。
- 福岡大学筑紫病院臨床研修センターは、メディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）を毎年複数回（8月と2月、必要に応じて臨時に）行います。担当指導医、Subspecialty上級医に加えて、看護師長、看護師、臨床検査・放射線技師・臨床工学技士、事務員などから、接点の多い職員5人を指名し、評価します。評価表では社会人としての適性、医師としての適正、コミュニケーション、チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します。評価は無記名方式で、臨床研修センター（仮称）もしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して5名以上の複数職種に回答を依頼し、その回答は担当指導医が取りまとめ、日本内科学会専攻医登録評価システムに登録します（他職種はシステムにアクセスしません）。その結果は日本内科学会専攻医登録評価システムを通じて集計され、担当指導医から形式的にフィードバックを行います。
- 日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応します。

## (2) 専攻医と担当指導医の役割

- 専攻医 1 人に 1 人の担当指導医（メンター）が福岡大学筑紫病院内科専門研修管理委員会により決定されます。
- 専攻医は web にて日本内科学会専攻医登録評価システムにその研修内容を登録し、担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
- 専攻医は、1 年目専門研修終了時に[研修カリキュラム](#)に定める 70 疾患群のうち 20 疾患群、60 症例以上の経験と登録を行うようにします。2 年目専門研修終了時に 70 疾患群のうち 45 疾患群、120 症例以上の経験と登録を行うようにします。3 年目専門研修終了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群、160 症例以上の経験の登録を修了します。それぞれの年次で登録された内容は都度、担当指導医が評価・承認します。
- 担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価や福岡大学筑紫病院臨床研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します。  
専攻医は Subspecialty の上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医と Subspecialty の上級医は、専攻医が充足していないカテゴリ内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。
- 担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。
- 専攻医は、専門研修（専攻医）2 年修了時までに 29 症例の病歴要約を順次作成し、日本内科学会専攻医登録評価システムに登録します。担当指導医は専攻医が合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形式的な指導を行う必要があります。専攻医は、内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき、専門研修（専攻医）3 年次修了までにすべての病歴要約が受理（アクセプト）されるように改訂します。これによって病歴記載能力を形式的に深化させます。

## (3) 評価の責任者

年度ごとに担当指導医が評価を行い、基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します。その結果を年度ごとに福岡大学筑紫病院内科専門研修管理委員会で検討し、統括責任者が承認します。

## (4) 修了判定基準

- 1) 担当指導医は、日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて研修内容を評価し、以下 i)～vi) の修了を確認します。
  - i) 主担当医として「[研修手帳\(疾患群項目表\)](#)」に定める全 70 疾患群を経験し、計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします。その研修内容を日本内科学会専攻医登録評価システムに登録します。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し、登録済み（P59 別表 1「福岡大学筑紫病院 疾患群 症例 病歴要約到達目標」参照）。
  - ii) 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理（アクセプト）
  - iii) 所定の 2 編の学会発表または論文発表
  - iv) JMECC 受講
  - v) プログラムで定める講習会受講
  - vi) 日本内科学会専攻医登録評価システムを用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性
- 2) 福岡大学筑紫病院内科専門医研修管理委員会は、当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し、研修期間修了約 1 か月前に福岡大学筑紫病院内科専門医研修管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

## (5) プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」、「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画（FD）の実施記録」は、日本内科学会専攻医登録評価システムを用います。

なお、「福岡大学筑紫病院内科専攻医研修マニュアル」（P.52）と「福岡大学筑紫病院内科専門研修指導者マニュアル」（P.57）と別に示します。

### 13. 福岡大学筑紫病院専門研修管理委員会の運営計画

- 1) 福岡大学筑紫病院内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準
  - i) 福岡大学筑紫病院内科専門研修管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。

福岡大学筑紫病院内科専門医研修管理委員会は、統括責任者、プログラム管理者（診療部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）、事務局代表者、および連携施設担当委員で構成されます。また、オブザーバーとして専攻医を委員会会議の一部に参加させます（P.51 福岡大学筑紫病院内科専門研修管理委員会参照）。福岡大学筑紫病院内科専門研修管理委員会の事務局を、福岡大学筑紫病院臨床研修センターにおきます。
  - ii) 福岡大学筑紫病院内科専門研修施設群は、基幹施設、連携施設ともに内科専門研修委員会を設置します。委員長1名（指導医）は、基幹施設との連携のもと活動するとともに、専攻医に関する情報を定期的に共有するために、毎年6月と12月に開催する福岡大学筑紫病院内科専門研修管理委員会の委員として出席します。

基幹施設、連携施設ともに、毎年4月30日までに、福岡大学筑紫病院内科専門研修管理委員会に以下の報告を行います。
- ① 前年度の診療実績
    - a) 病院病床数, b) 内科病床数, c) 内科診療科数, d) 1か月あたり内科外来患者数, e) 1か月あたり内科入院患者数, f) 剖検数
  - ② 専門研修指導医数および専攻医数
    - a) 前年度の専攻医の指導実績, b) 今年度の指導医数/総合内科専門医数, c) 今年度の専攻医数, d) 次年度の専攻医受け入れ可能人数.
  - ③ 前年度の学術活動
    - a) 学会発表, b) 論文発表
  - ④ 施設状況
    - a) 施設区分, b) 指導可能領域, c) 内科カンファレンス, d) 他科との合同カンファレンス, e) 抄読会, f) 机, g) 図書館, h) 文献検索システム, i) 医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会, j) JMECC の開催.
  - ⑤ Subspecialty 領域の専門医数  
日本消化器病学会消化器専門医 16名, 日本肝臓学会専門医 3名, 日本消化器内視鏡学会 15名, 日本循環器学会循環器専門医 4名, 日本内科学会（総合専門医）12名, 日本消化管学会 7名, 日本内分泌学会専門医 2名, 日本糖尿病学会専門医 3名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4名, 日本血液学会血液専門医 0名, 日本神経学会神経内科専門医 2名, 日本アレルギー学会専門医（内科）1名, 日本老年医学会専門医 1名, 日本心血管インターベンション治療学会専門医 3名, 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 1名, 日本超音波医学会専門医 2名, 日本不整脈心電学会専門医 1名, 日本感染症学会専門医 3名, 日本救急医学会救急科専門医 2名など

### 14. プログラムとしての指導者研修（FD）の計画

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を活用します。  
厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。  
指導者研修（FD）の実施記録として、日本内科学会専攻医登録評価システムを用います。

### 15. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

労働基準法や医療法を順守することを原則とします。  
専門研修（専攻医）1年目、2年目は基幹施設である福岡大学筑紫病院の就業環境に、専門研修（専攻医）。3年目は連携施設もしくは特別連携施設の就業環境に基づき、就業します。  
（P.14「福岡大学筑紫病院内科専門研修施設群」参照）。



基幹施設である福岡大学筑紫病院の整備状況：

- 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- 福岡大学筑紫病院助手として労務環境が保障されています。
- メンタルストレスに適切に対処する部署（管理課職員担当）があります。
- ハラスメント委員会が福岡大学に整備されています。
- 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。
- 敷地内に院内保育所があり，利用可能です。

専門研修施設群の各研修施設の状況については，P.14「福岡大学筑紫病院内科専門施設群」を参照。また，総括的評価を行う際，専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い，その内容は福岡大学筑紫病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが，そこには労働時間，当直回数，給与など，労働条件についての内容が含まれ，適切に改善を図ります。

## 16. 内科専門研修プログラムの改善方法

### 1) 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は年に複数回行います。また，年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には，研修施設ごとに逆評価を行います。その集計結果は担当指導医，施設の研修委員会，およびプログラム管理委員会が閲覧します。また集計結果に基づき，福岡大学筑紫病院内科専門研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立ちます。

### 2) 専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス

専門研修施設の内科専門研修委員会，福岡大学筑紫病院内科専門研修管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて，専攻医の逆評価，専攻医の研修状況を把握します。把握した事項については，福岡大学筑紫病院内科専門研修管理委員会が以下に分類して対応を検討します。

- ① 即時改善を要する事項
- ② 年度内に改善を要する事項
- ③ 数年をかけて改善を要する事項
- ④ 内科領域全体で改善を要する事項
- ⑤ 特に改善を要しない事項

なお，研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難である場合は，専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

- 担当指導医，施設の内科研修委員会，福岡大学筑紫病院内科専門研修管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし，福岡大学筑紫病院内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して福岡大学筑紫病院内科専門研修プログラムを評価します。
- 担当指導医，各施設の内科研修委員会，福岡大学筑紫病院内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし，自律的な改善に役立ちます。状況によって，日本専門医機構内科領域研修委員会の支援，指導を受け入れ，改善に役立ちます。

### 3) 研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

福岡大学筑紫病院臨床研修センターと福岡大学筑紫病院内科専門研修管理委員会は，福岡大学筑紫病院内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します。その評価を基に，必要に応じて福岡大学筑紫病院内科専門研修プログラムの改良を行います。

福岡大学筑紫病院内科専門研修プログラム更新の際には，サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します。

## 17. 専攻医の募集および採用の方法

福岡大学筑紫病院内科専門研修管理委員会は、毎年7月から website での公表や説明会などを行い、内科専攻医を募集します。翌年度のプログラムへの応募者は、福岡大学筑紫病院医師募集要項（福岡大学筑紫病院内科専門研修プログラム：内科専攻医）に従って応募します。書類選考および面接を行い、福岡大学筑紫病院内科専門研修管理委員会において協議の上で採否を決定し、本人に文書で通知します。

(問い合わせ先)

福岡大学筑紫病院 内分泌・糖尿病内科 教授 小林邦久 E-mail:[nihisak@fukuoka-u.ac.jp](mailto:nihisak@fukuoka-u.ac.jp)

福岡大学筑紫病院内科専門研修プログラムを開始した専攻医は、遅滞なく日本内科学会専攻医登録評価システムにて登録を行います。

## 18. 内科専門研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には、適切に日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて福岡大学筑紫病院内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し、担当指導医が認証します。これに基づき、福岡大学筑紫病院内科専門研修管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が、その継続的研修を相互に認証することにより、専攻医の継続的な研修を認めます。他の内科専門研修プログラムから福岡大学筑紫病院内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です。

他の領域から福岡大学筑紫病院内科専門研修プログラムに移行する場合、他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめめる場合、あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には、当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し、担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め、さらに福岡大学筑紫病院内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り、日本内科学会専攻医登録評価システムへの登録を認めます。症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります。

疾病あるいは妊娠・出産、産前後に伴う研修期間の休止については、プログラム終了要件を満たしており、かつ休職期間が6ヶ月以内であれば、研修期間を延長する必要はないものとします。これを超える期間の休止の場合は、研修期間の延長が必要です。短時間の非常勤勤務期間などがある場合、按分計算（1日8時間、週5日を基本単位とします）を行なうことによって、研修実績に加算します。

留学期間は、原則として研修期間として認めません。

## 福岡大学筑紫病院内科専門研修施設群

研修期間：3年間（基幹施設 2年間＋連携・特別連携施設 1年間）

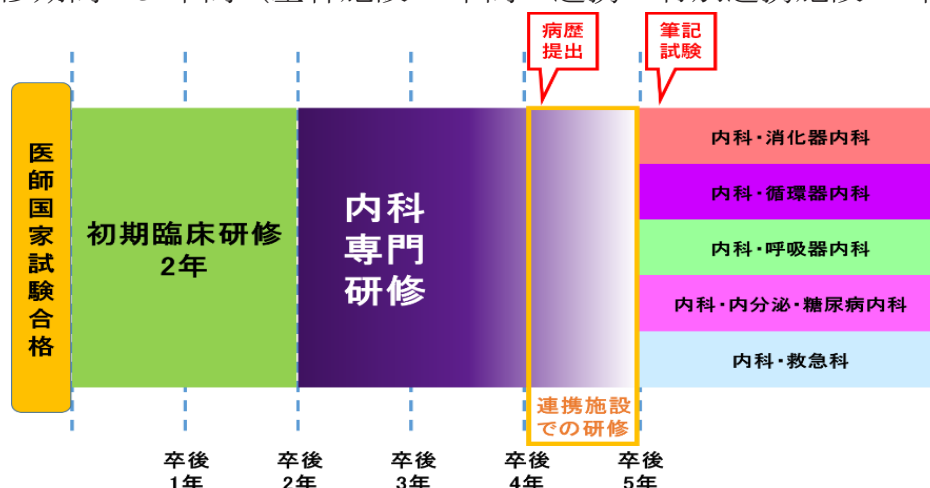


図1. 福岡大学筑紫病院内科専門研修プログラム（概念図）

## 福岡大学筑紫病院内科専門研修施設群研修施設

表1. 各研修施設の概要

	病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科剖検数
基幹施設	福岡大学筑紫病院	310	115	4	27	12	3
連携施設	福岡大学病院	915	194	8	79	41	13
連携施設	佐田厚生会佐田病院	180	60	5	6	1	0
連携施設	芦屋中央病院	137	77	5	2	2	0
連携施設	戸畑共立病院	218	60	6	2	9	0
連携施設	田主丸中央病院	343	50	12	3	1	0
連携施設	田川市立病院	334	86	6	2	3	0
連携施設	いまきいれ総合病院	350	120	7	9	13	0
連携施設	福岡青洲会病院	213	68	9	18	13	1
連携施設	長崎県壱岐病院	228	51	4	3	1	0
連携施設	九州中央病院	330	150	10	14	14	13
連携施設	佐賀大学医学部付属病院	604	187	9	83	44	25
連携施設	小波瀬病院	266	40	6	1	2	0
連携施設	糸島医師会病院	150	96	9	3	0	0
連携施設	新行橋病院	246	96	4	1	2	2
連携施設	行橋中央病院	148	98	7	1	0	0
連携施設	社会保険直方病院	156	60	8	3	2	0
連携施設	白十字病院	466	256	20	15	11	2
連携施設	熊本大学病院	845	254	8	93	73	11



連携施設	山形大学医学部附属病院	466	190	4	34	29	2
連携施設	福岡大学西新病院	117	117	5	5	6	0
特別連携施設	京都病院	174	174	5	0	3	0
研修施設合計		6234	2228	148	306	203	67

表 2. 各内科専門研修施設の内科 13 分野の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
福岡大学筑紫病院	○	○	○	○	○	△	○	△	○	○	△	○	○
福岡大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
佐田厚生会佐田病院	○	○	○	△	○	△	△	△	×	△	△	△	○
芦屋中央病院	○	○	△	○	△	○	△	×	△	×	△	×	×
戸畑共立病院	○	○	○	△	○	○	○	△	○	△	×	○	○
田主丸中央病院	○	○	○	△	△	△	○	△	△	△	△	△	△
田川市立病院	○	○	○	△	△	○	○	△	△	×	×	×	×
いまきいれ総合病院	○	○	○	○	△	△	○	○	○	△	×	○	○
福岡青洲会病院	○	○	○	×	×	○	○	×	×	△	×	×	○
長崎県壱岐病院	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○
九州中央病院	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	△	○	○
佐賀大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
小波瀬病院	○	△	○	△	△	○	○	×	○	△	○	○	○
糸島医師会病院	×	○	○	○	△	×	○	×	○	×	×	×	×
新行橋病院	○	○	○	×	×	△	○	×	△	×	×	×	○
行橋中央病院	○	○	△	○	○	○	△	×	×	×	○	×	×
社会保険直方病院	○	○	○	○	○	○	△	×	△	×	×	×	○
白十字病院	○	○	○	△	○	○	○	△	○	△	△	○	○
熊本大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
山形大学医学部附属病院	○	△	△	○	○	△	△	○	○	△	○	○	○
京都病院	○	×	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×

各研修施設での内科 13 領域における診療経験の研修可能性を 3 段階(○, △, ×)に評価しました.  
 (○:研修できる, △:時に経験できる, ×:ほとんど経験できない)

## 専門研修施設群の構成要件

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。福岡大学筑紫病院内科専門研修施設群研修施設は全国の医療機関から構成されています。

福岡大学筑紫病院は、福岡県筑紫医療圏の中心的な急性期病院です。そこでの研修は、地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設・特別連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせ、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院である福岡大学病院、今給黎総合病院、田川市立病院、戸畑共立病院、佐賀大学医学部附属病院、熊本大学病院、山形大学病院、地域基幹病院である芦屋中央病院、佐田厚生会佐田病院、九州中央病院、長崎県壱岐病院、糸島医師会病院および地域医療密着型病院である田主丸中央病院、福岡青洲会病院、新行橋病院、小波瀬病院、京都病院、行橋中央病院、社会保険直方病院で構成しています。

高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。

地域基幹病院では、福岡大学筑紫病院と異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。

地域医療密着型病院では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修します。

## 専門研修施設（連携施設・特別連携施設）の選択

- 専攻医2年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に、研修施設を調整し決定します。
- 病歴提出を終える専攻医3年目の1年間、連携施設・特別連携施設で研修をします（図1）。なお、研修達成度によっては Subspecialty 研修も可能です（個々人により異なります）。

## 専門研修施設群の地理的範囲

福岡県筑紫医療圏と鹿児島県・熊本県・山形県医療圏にある施設から構成しています。



# 1) 専門研修基幹施設

## 福岡大学筑紫病院

<p>認定基準 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・福岡大学筑紫病院助手として労務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署（管理課職員担当）があります。</li> <li>・ハラスメント委員会が福岡大学に整備されています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。</li> </ul>
<p>認定基準 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医は 25 名在籍しています。</li> <li>・内科専門研修管理委員会（統括責任者（診療部長）、プログラム管理者（診療部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。</li> <li>・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する臨床研修センターを設置しています。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2023 年度実績 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的開催（2023 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンス（福岡消化器病研究会、福岡 NST 研究会、福岡循環器救急カンファレンス、九州肺癌カンファレンス、糖尿病と心血管障害を考える会 他；2023 年度実績 89 回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
<p>認定基準 3)診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野全てを網羅し、それぞれの分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。</li> <li>・専門研修に必要な剖検（2022 年度実績 3 体、2023 年度 3 体）を行っています。</li> </ul>
<p>認定基準 4)学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間計 1 演題以上の学会発表をしています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>小林 邦久</p> <p><b>【内科専攻医へのメッセージ】</b></p> <p>福岡大学筑紫病院は、福岡県筑紫医療圏の中心的な急性期病院であり、連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p> <p>主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会総合内科専門医 12 名、指導医 25 名          日本消化器病学会消化器専門医 16 名、指導医 6 名          日本循環器学会循環器専門医 4 名          日本内分泌学会専門医 2 名、指導医 2 名          日本糖尿病学会専門医 3 名、指導医 3 名          日本消化管学会 7 名 指導医 5 名          日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、指導医 3 名          日本肝臓学会専門医 3 名、指導医 2 名          日本膵臓学会指導医 3 名          日本胆道学会指導医 1 名          日本老年医学会老年科専門医 1 名          日本アレルギー学会専門医 1 名、指導医 1 名          日本超音波医学会専門医 2 名、指導医 1 名          日本消化器内視鏡学会専門医 15 名、指導医 6 名          日本高血圧学会 専門医 1 名</p>

	日本不整脈学会専門医 1 名 日本救急医学会専門医 2 名 日本心血管インターベンション治療学会専門医 3 名 日本感染症学会専門医 3 名, 指導医 1 名 日本呼吸器内視鏡学会専門医 1 名, 指導医 1 名ほか 日本カプセル内視鏡学会指導医 2 名 日本消化管学会指導医 4 名
外来・入院患者数	外来患者 10,410 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 7,290 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域, 70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定教育施設 日本消化器病学会認定医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本カプセル内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本膵臓学会認定指導施設 日本高血圧学会高血圧専門医制度認定研修施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本呼吸器学会専門研修プログラム基幹施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡認定施設 日本アレルギー学会専門医教育研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本医真菌学会認定専門医研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本消化管学会指導施設 日本大腸肛門病学会指導施設 日本老年医学会認定教育施設

## 2) 専門研修連携施設

### 1. 福岡大学病院

認定基準 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する組織があります。</li> <li>・ハラスメント委員会が福岡大学に整備されています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。</li> </ul>
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が 79 名在籍しています。</li> <li>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的（各年間 9 回）に開催し専攻医に受講を義務付けると共に、医療安全管理のための研修会を年 13 回実施しております。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンス（2020 年度実績 1 回）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的に開催（2020 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンス（2020 年度実績 4 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
認定基準 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野全てを網羅し、それぞれの分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2020 年度実績 5 演題）をしています。
指導責任者	高松 泰 【内科専攻医へのメッセージ】 福岡大学病院は、福岡県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 (常勤医)	認定内科医 106 名、総合内科専門医 43 名 消化器病学会 専門医・認定医 13 名 肝臓学会 専門医・認定医 7 名 循環器学会 専門医・認定医 21 名 内分泌学会 専門医・認定医 4 名 腎臓学会 専門医・認定医 4 名 糖尿病学会 専門医・認定医 5 名 呼吸器学会 専門医・認定医 9 名 血液学会 専門医・認定医 5 名 神経学会 専門医・認定医 10 名 アレルギー学会 専門医・認定医 1 名 リウマチ学会 専門医・認定医 3 名 感染症学会 専門医・認定医 4 名
外来・入院患者数	外来患者 100,083 名（年間） 入院患者 5,318 名（年間）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設

日本血液学会認定血液研修施設 日本神経学会認定医教育施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修認定施設 日本胸部疾患学会認定施設 日本呼吸器学会認定医制度認定施設 日本アレルギー学会認定施設 日本透析医学会認定施設 日本腎臓学会研修認定施設 日本輸血学会認定施設 日本気管支学会認定施設 認定輸血検査技師制度指定施設 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝専門医認定教育施設 日本脳卒中学会専門医認定施設 日本感染症学会研修認定施設 日本環境感染学会認定教育施設 日本がん治療認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 など
--



## 2. 公益社団法人昭和会 いまきいれ総合病院

認定基準 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・いまきいれ総合病院常勤医師として勤務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。</li> <li>・ハラスメント委員会がいまきいれ総合病院に整備されています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，が整備されています。</li> <li>・病院近傍に院内保育所があり，利用可能です。</li> </ul>
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が1名在籍しています（下記）。</li> <li>・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2021年度実績 医療倫理1回（複数回開催），医療安全2回（各複数回開催），感染対策3回（各複数回開催））し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンス（2021年度予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンス（病診，病病連携カンファレンス）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
認定基準 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち，総合内科，消化器，循環器，呼吸器，血液，神経および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	今給黎 和幸 【内科専攻医へのメッセージ】 いまきいれ総合病院は2021年1月に鹿児島市北部より鹿児島市中心部に移転開業しました。急性期一般病棟319床，HCU10床，NICU9床，GCU12床の合計350床を有し，地域の中核病院として急性期医療を担っています。鹿児島大学病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い，内科専門医の育成を行います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会認定内科医9名 日本神経内科専門医・指導医3名 日本消化器病学会消化器専門医5名 日本循環器学会循環器専門医4名ほか
外来・入院患者数	外来患者6,758名(1ヶ月平均) 入院患者286名(1日平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳(疾患群項目表)にある13領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会 認定・認定医教育関連病院 日本神経学会 専門医制度教育関連施設 日本消化器内視鏡学会 認定・専門医指導施設 日本呼吸器学会・専門医制度関連施設 日本血液学会・認定研修施設 日本胆道学会・指導医制度指導施設 日本消化器病学会・専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設

### 3. 田川市立病院

認定基準 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・田川市立病院常勤医師として勤務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、当直室等が整備されています。</li> </ul>
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が3名在籍しています（下記）。</li> <li>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（令和2年度実績 医療安全2回、感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を開催（令和2年度実績なし）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンス（令和2年度院内講演会・研修回6回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
認定基準 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、呼吸器、腎臓および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</li> <li>・専門研修に必要な剖検（令和2年度実績なし）を行っています。</li> </ul>
認定基準 4) 学術活動の環境	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（<b>2014年度実績 1演題</b>）をしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・倫理委員会を設置し、定期的開催（令和元年度実績2回）しているが、令和3年度は新型コロナ感染防止のため、書面決裁等で代替している。</li> <li>・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。</li> </ul>
指導責任者	<p>岸 昌廣</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>地域中核病院において、高齢者の common disease を主体とした総合内科、さらに消化器、循環器、糖尿病・代謝、腎臓については高度な専門内科の診療が経験できます。いずれの疾患も、知識・技術を十分に習得できるまで、豊富な症例を担当することが可能です。また、訪問診療、在宅緩和ケア治療、様々な介護施設との医療・介護連携を経験することから、地域包括ケアシステムを学び、その重要性を認識することができます。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会総合内科専門医 3名、指導医 2名</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医1名、</p> <p>日本腎臓学会専門医2名、</p> <p>日本透析医学会専門医2名</p> <p>日本呼吸器学会専門医 1名、指導医 1名</p> <p>日本感染症学会専門医 1名、指導医 1名</p> <p>日本呼吸器内視鏡学会専門医 1名、指導医 1名</p> <p>日本結核・非結核性抗酸菌症学会指導医 1名</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者 3,628名（1ヶ月平均） 入院患者 1,660名（1ヶ月平均）</p> <p>（患者数は、延べ実数を計上しています）</p>
経験できる疾患群	<p>研修手帳（疾患群項目表）にある13領域中11領域（総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、神経、アレルギー、膠原病および類縁疾患、感染症、救急）については、含まれるすべての疾患群の診療が経験できます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>訪問診療、在宅緩和ケア治療、様々な介護施設との医療・介護連携を経験できます。</p>

学会認定施設  (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 など
---------------------	---

#### 4. 社会医療法人共愛会 戸畑共立病院

認定基準 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・社会医療法人共愛会 戸畑共立病院常勤医師として勤務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。加えて、臨床心理士が対処することも出来ます。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・病院近傍に院内保育所があり、利用することが可能です。</li> </ul>
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が1名在籍しています（下記）。</li> <li>・内科研修委員会を設置して、病院内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2021年度実績 医療安全2回（各複数回開催）、感染対策2回（各複数回開催））し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的開催（2021年度実績1回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域医療従事者参加型のカンファレンス（2021年度実績12回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
認定基準 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、呼吸器および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2019年度実績1演題）を予定しています。
指導責任者	宗 祐人 【内科専攻医へのメッセージ】 社会医療法人共愛会 戸畑共立病院は福岡県の北九州市戸畑区にあり、急性期一般病棟218床を有するとともに近隣にリハビリテーション病院、老人保健介護施設を設け、地域の医療・保健・福祉を担っています。また、当院は、地域医療支援病院・救急告示病院・地域がん診療連携拠点病院・災害拠点病院の認定を受けており、特に救急医療およびがん治療に力を注いでいます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医1名、日本内科学会総合内科専門医4名 日本消化器病学会指導医3名 専門医7名、 日本循環器学会専門医1名、日本内分泌学会指導医1名、 日本呼吸器学会指導医1名、日本肝臓学会専門医3名、ほか
外来・入院患者数	外来患者2,670名（1ヶ月平均延べ患者数）入院患者2,186名（1ヶ月平均延べ患者数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医教育関連病院 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定関連施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本肝臓学会認定施設 日本呼吸器学会関連施設 など



## 5. 芦屋中央病院

認定基準 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻医に必要な個別の机，ロッカーが確保され，研修に必要な図書室，インターネット環境が設置されている。</li> <li>・地方独立行政法人の常勤医師として労働環境が保証されている。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるよう休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が確保されている。</li> </ul>
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医 2 名が在籍している。</li> <li>・施設内で研修する専攻医の研修内容を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会との連携を図る。</li> <li>・地域参加型のカンファレンス(2019 年度，地元医師会合同勉強会 10 回，多施設合同研究会 15 回)を定期的に開催し，専攻医に受講，自らのプレゼンテーションを促し，そのための時間的余裕を与える。</li> </ul>
認定基準 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域 1 3 分野のうち，消化器，循環器，呼吸器，代謝，膠原病，腎臓および神経において，定常的に常勤，非常勤医が診療を行っており，専攻医に研修可能な多数の症例数を診療している。</li> </ul>
認定基準 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内科学会学術講演会，ならびに同地方会に定期的に参加し，受講，演題発表を行っている。そのための時間的余裕にも配慮している。</li> <li>・専攻医が国内の多くの学会に参加・発表できるよう配慮しており，実際多くの演題発表，しばしば論文の執筆活動も行なっている。</li> </ul>
指導責任者	<p>櫻井 俊弘(病院長，消化器科)</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>芦屋中央病院は福岡県遠賀郡に位置し，2018 年 3 月に新築移転しました。病床数は，137 床(内科系 77 床，外科系 45 床，緩和ケア 15 床)を有します。消化器疾患などの内視鏡，X 線，CT，MRI，超音波等の画像診断では多くの症例を経験でき，また，緩和ケア治療，在宅終末期治療，在宅訪問治療などに関連した地域医療，診療連携についても研修，経験できます。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 2 名</p> <p>日本消化器内視鏡学会指導医 2 名</p> <p>日本消化器病学会専門医 2 名</p> <p>日本食道学会食道科認定医 1 名</p>
外来・入院患者数	外来患者 3,508 名(月平均)，入院患者数 1,587 名(月平均)
経験できる疾患群	前述のごとく，常勤，非常勤合わせて多数の専門医が在籍し，一部の疾患を除く多様な内科疾患の患者について外来，入院，双方での診療，研修が可能である。
経験できる技術・技能	特に消化器疾患などの内視鏡，X 線，CT，MRI，超音波等の画像診断では経験できる症例も多く，さらに内視鏡治療，外科的治療についても幅広く経験できる。また，消化管の内視鏡検査・治療では専門指導医のもと，検査・手技についての技術指導も行なっている。
経験できる地域医療・診療連携	緩和ケア治療，在宅終末期治療，在宅訪問治療などに関連した地域医療，診療連携につき研修，経験できる。
学会認定施設 (内科系)	日本消化器内視鏡学会指導施設，日本消化器病学会指導関連施設

## 6. 佐田厚生会佐田病院

認定基準 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床研修指定病院です。</li> <li>研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>メンタルストレスに適切に対処する部署（事務部経営管理課）があります。</li> <li>女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> </ul>
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導医が 6 名（7 学会）在籍しています（下記）。</li> <li>内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2020 医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>基幹施設で行う CPC の専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>地域の連携病院及び診療所との合同カンファレンスを参画、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
認定基準 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</li> </ul>
認定基準 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本消化器内視鏡学会や日本消化器病学会の講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2021 年度実績 4 演題）をしています。</li> <li>治験審査委員会を設置し、治験実施に際しては定期的に開催しています。</li> <li>専攻医が国内外の学会に参加・発表する機会があり、論文の筆頭著者としての執筆が行われています。</li> </ul>
指導責任者	<p>八坂 達尚</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>内科には一般内科、消化器内科、循環器内科、肝臓内科、糖尿病・内分泌内科があり地域に密着した中小病院として、コモンディーズの経験をすると同時に大学病院や中核病院との病病連携や診療所との病滲連携を経験できます。</p> <p>消化器内科は、一般消化器内科は勿論のこと炎症性腸疾患（クローン病、潰瘍性大腸炎）、消化管悪性腫瘍の実績を多く有しています。内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）も積極的に行い、食道癌、胃癌、大腸癌に対して施行しています。（2021 年度実績 ESD 55 例、EMR 243 例、EUS 27 例、止血術 26 例、異物除去 10 例、小腸内視鏡 2 例、拡張術 3 例、ステント留置 4 例、PEG 造設・交換 11 例、GIS 2056 例、TCS 1290 例 等）</p> <p>外来においては、問診を十分に行ったうえ、CT や MRI 等の検査が即座に施行できる体制が整っています。また、他科との連携もスムーズに行うことが出来るため診断から治療介入まで速やかに行うことが出来ます。</p>
指導医数 （常勤医）	<p>（重複あり 6 名 7 学会）</p> <p>日本内科学会総合内科専門医 1 名、日本消化器病学会消化器専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本消化器内視鏡専門医 2 名、日本肝臓内科専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本内科学会認定医 5 名</p>
外来・入院患者数	外来患者 4,640 名（1 ヶ月平均） 入院患者 2,999 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	<p>研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、腫瘍を除く総合内科と消化器全般をまた、循環器では血圧異常、弁膜疾患、心膜・心筋疾患を経験できます。また、多数の外来患者や二次救急病院として受け入れた内科疾患について経験できます。</p>
経験できる技術・技能	<p>内視鏡検査・治療、癌の診断、抗癌剤治療、腹部・心臓超音波検査、心大血管疾患リハビリテーション等の経験が出来ます。技術・技能評価手帳の示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら経験することが出来ます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>地域に密着した中小病院として、大学病院や地域の中核病院との病病連携や診療所との病滲連携を経験できます。</p> <p>また、二次救急病院として様々な内科疾患を幅広く経験できます。</p>

<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本消化器内視鏡学会専門医制度連携施設(指導施設：福岡大学筑紫病院)          日本消化器病学会関連施設(指導施設：福岡大学筑紫病院)          日本循環器専門医研修関連施設          日本肝臓学会肝臓専門医特別連携施設(指導施設：福岡大学筑紫病院)          日本がん治療認定医機構認定研修施設</p>
-------------------------	---

## 7. 田主丸中央病院

認定基準 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初期臨床研修における協力型研修指定病院です。</li> <li>・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・ 田主丸中央病院常勤医師として勤務環境が保障されています。</li> <li>・ メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。</li> <li>・ ハラスメント委員会（安全衛生委員会内）が院内に整備されています。</li> <li>・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、各医師へ更衣等で使用可能な個室、施錠可能な当直室（シャワー室含む）が整備されています。</li> <li>・ 病院に隣接した施設に院内保育所があり、利用可能です。</li> </ul>
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導医が3名在籍しています（下記）。</li> <li>・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・ 医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2020年度実績 医療安全2回、感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・ 基幹施設で行うCPC、もしくは日本内科学会が企画するCPCの受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えています。</li> <li>・ 地域参加型のカンファレンス（2020年度実績 症例検討会4回、救急症例検討会2回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
認定基準 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、消化器、循環器、呼吸器の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会への参加、年間で計1演題以上の学会発表できる環境を整えている。
指導責任者	<p>鬼塚 一郎</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>田主丸中央病院は福岡県久留米市東部にあり、急性期一般病棟 90床、回復期リハビリテーション病棟 47床、療養病棟 25床、緩和ケア病棟 13床、地域包括ケア病棟や、精神科、障害者等一般病棟など合計343床を有し、地域ケアミックス型の地域医療支援病院として地域の医療・保健・福祉を担っています。</p> <p>外来でのAI問診導入、医師事務作業補助者を手厚く配備し、医師が診療のみに集中できる環境作りに努めています。画像診断では放射線科専門医が全ての画像をダブルチェックしており、正確な画像診断には定評があります。その他、各科の垣根が無く色々と気軽に相談しあえるのが当院の特色です。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医2名、内科学会総合内科専門医1名</p> <p>日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医 1名</p> <p>日本循環器学会循環器専門医2名、日本呼吸器学会指導医・専門医2名</p> <p>日本消化管学会胃腸科指導医1名ほか</p>
外来・入院 患者数	外来患者 6,904名 (1ヶ月平均) 入院患者 310名 (1日平均)
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。高齢者は複数の疾患を併せ持つため、疾患のみを診るのではなく全身を総合的に診る医療の実践が可能になります。
経験できる 技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	<p>日本消化器病学会教育関連施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p> <p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本プライマリ・ケア連合学会認定施設</p> <p>など</p>



## 8. 福岡青洲会病院

認定基準 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります</li> <li>・論文検索用に up to date anywhere 等を導入しています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、女性専用当直室が整備されています。</li> <li>・事業所内保育事業所（保育所型・夜間保育有）、企業主導型保育事業所有り</li> </ul>
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が 18 名在籍しています（下記）。</li> <li>・専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療に係る安全管理委員会及び職員研修を年 1 2 回開催。</li> <li>・毎週水曜日に会射している総合内科カンファレンスに参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC 開催時に専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
認定基準 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、神経、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</li> <li>・専門研修に必要な剖検を行っています。</li> </ul>
認定基準 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本内科学会講演会あるいは同地方会にて学会発表をしています。</li> <li>・倫理委員会を設置し、定期的で開催（昨年度実績 12 回）しています。</li> <li>・治験も行っている。</li> <li>・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も行われています。</li> </ul>
指導責任者	<p>中里 未央</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>特に地域に必要とされる救急医療に力を注いでおり、内科的疾患に関しては診療科同士の横の連携も図り易く、各種検査、治療等の手技も多く学べる環境にあります。また、地域に密着した開放型病院として診療所の先生方からの紹介も多く、病診連携や病病連携等の地域連携の仕組みや在宅までの流れ等も学ぶ事ができます。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 18 名</p> <p>日本内科学会認定内科医 16 名</p> <p>日本内科学会認定総合内科専門医 13 名</p> <p>総合診療特任指導医 3 名</p> <p>日本プライマリ・ケア連合学会認定認定医 2 名・指導医 2 名</p> <p>日本病院総合診療学会認定医 2 名・指導医 1 名</p> <p>日本呼吸器学会認定専門医 5 名、指導医 2 名</p> <p>日本呼吸器内視鏡学会認定気管支鏡専門医 4 名・指導医 2 名</p> <p>日本循環器学会循環器専門医 5 名</p> <p>日本心血管インターベンション治療学会指導医 2 名</p> <p>日本心血管カテーテル治療学会認定医 4 名</p> <p>日本腎臓学会認定腎臓専門医 1 名・指導医 1 名</p> <p>日本脳卒中学会認定脳卒中専門医 1 名</p> <p>日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 1 名</p> <p>日本癌学会日本がん治療認定医機構がん治療認定医 2</p> <p>日本化学療法学会抗菌療法認定医 2 名</p> <p>日本救急医学会認定救急科専門医 1 名</p> <p>ICD 制度協議会認定感染症対策専門医 3 名</p>
外来・入院患者数	総外来患者 63,646 名（年間） 総入院患者 5,607 名（年間）
経験できる疾患群	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域については全ての領域で、疾患別に関しても内分泌や膠原病等一部を除いて殆どの疾患も網羅している。</li> <li>2) 研修手帳の一部の疾患を除き、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、幅広く経験することが可能です。</li> </ol>
経験できる技術・技能	循環器に於いては心血管インターベンションや不整脈に対するペースメーカー植え込み術、呼吸器内科は気管支鏡、がんの診断、抗がん剤治療、神経内科に於いては脳梗塞に対する処置、神経リハビリテーション、経頭蓋刺激装置を用いた治療

	及び神経生理等，消化器内科に於いては各種内視鏡検査・治療，腎臓内科・透析等，救急では地域の消防署の救急隊とワークステーション方式を取っており，また病院独自のドクターカーの運用もしている．病院は，災害拠点病院であり，災害医療も学べる．
経験できる地域医療・診療連携	当院は，近隣に介護老人保健施設を運用しており，また訪問看護などの在宅の事業所も揃っており，急性期から在宅まで対応する．また当院は開放型病院として130以上の地域の診療所の先生方及び病院から年間6,000件以上の紹介が有り，その中で地域連携の仕組みや文書管理，情報管理等の運用面も学ぶ事ができる．
学会認定施設 (内科系)	日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 救急科専門医指定研修施設 日本病院総合診療医学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本神経学会認定施設（准教育施設） 日本脳卒中学会認定研修教育病 救急科専門医指定研修施設 日本消化器病学会関連施設

## 9. 長崎県壱岐病院

<p>認定基準 【整備基準 25】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度研修協力病院です。</li> <li>・研修に必要なインターネット環境があります。</li> <li>・女性医師も複数人勤務しており、快適な環境整備に心掛けています</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 25】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医は2名在籍しています（下記）。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行っています。</li> <li>・地域中核病院として、プライマリ・ケアを中心として、幅広い疾患の経験ができます。</li> <li>・退院前カンファや、自宅訪問を経験し、地域指向型の研修ができます。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 25】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内科系専門診療は、循環器、消化器での経験ができます。また、専門外来は、循環器、消化器、糖尿病、腎臓、内分泌、血液、リウマチ膠原病、呼吸器が開設されています。</li> <li>・専門研修に必要な剖検は、行われていません</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 25】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研究に必要な図書などを整備しています。</li> <li>・倫理委員会を定期開催しています。</li> <li>・学会活動を奨励し、年数回の参加に支援しています</li> </ul>
<p>指導責任者</p>	<p>大西 康</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院は、壱岐市の地域中核病院としての機能を有し、入院患者 150 名/日、外来患者 350 名/日、救急車搬入台数 1000 件/年です。</p> <p>17 診療科を有し、整形外科、外科、眼科を中心に、手術も行われています。</p> <p>また、救急医療にも力を入れ、断らない医療を展開しています。</p> <p>本土との、3 次医療連携は、福岡や長崎を中心として年間、約 100 件のヘリ搬送も行われています。</p> <p>診療は、専門医ながら、プライマリ・ケアを中心に、幅広い疾患に対応できる医師が多く在籍しています</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本消化器病学会消化器専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 350 名（一日平均） 入院患者 150 名（一日平均）</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>島内唯一の中核病院として、救急医療の充実と、一般診療を行っています。</p> <p>また、専門医療（外来を中心）も充実させ、福岡への通院を減らす方向で、努力しています。また、退院支援を充実させ、多くの専門職 9 名（MSW、PSW、支援看護師等）が働いています。積極的に、地域との連携を強化しています。</p>
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>—</p>

## 10. 九州中央病院

<p>認定基準 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・九州中央病院常勤医師として勤務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処するメンタルヘルスセンターがあります。</li> <li>・ハラスメント委員会が庶務課に整備されています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。</li> </ul>
<p>認定基準 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医は14名在籍しています（下記）。</li> <li>・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者、プログラム管理者（診療部長）；専門医研修プログラム準備委員会から2017年度中に移行予定）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。</li> <li>・基幹施設内において研修する専攻医の研修を内科専門研修委員会、臨床研修センターが管理します。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2021年度実績7回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスを定期的の主催（2022年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的で開催（2021年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンス（胃腸カンファレンス、呼吸器疾患勉強会、九中循環器医療連携勉強会、南区糖尿病を考える会、救急医療勉強会、がん診療研修会；2019年度実績30回）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2015年度開催実績なし）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センター（2017年度予定）が対応します。</li> <li>・特別連携施設は現時点では本プログラムには含まれていませんが、今後地域医療を鑑み、本プログラムにおける必要性が認められた際には追加を検討します。</li> </ul>
<p>認定基準 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも7分野以上）で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。</li> <li>・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます（上記）。</li> <li>・専門研修に必要な剖検（2021年度13体）を行っています。</li> </ul>
<p>認定基準 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。</li> <li>・倫理委員会を定期開催しており、2017年度には臨床倫理委員会を設置しています。</li> <li>・治験管理室を設置し、定期的な受託研究審査会を開催（2021年度実績11回）しています。</li> <li>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計5演題以上の学会発表9（2021年度実績8演題）をしています。</li> </ul>
<p>指導責任者</p>	<p>竹迫 仁則</p> <p><b>【内科専攻医へのメッセージ】</b></p> <p>九州中央病院は、福岡市南区大橋駅から徒歩5分に位置した330床の急性期病院であり、9つの内科系診療科（総合内科、糖尿病・内分泌内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、肝臓内科、膵臓内科、脳神経内科、腎臓内科、心療内科）と救急部により、内科領域全般の疾患を研修できる体制が敷かれています。特に、救急搬入件数は年間6,000台を超えており、各専門内科の24時間オンコール体制の支援により、プライマリ・ケアから専門内科での緊急対応まで充実した研修が行えます。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医14名、日本内科学会総合内科専門医14名 日本消化器病学会消化器専門医5名、日本循環器学会循環器専門医4名、 日本糖尿病学会専門医2名、日本腎臓病学会専門医2名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医3名、日本アレルギー学会専門医（内科）1名、 ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者年間56,806名 入院患者年間4,748名</p>



経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本脳卒中学会認定研修教育施設 日本透析医学会教育関連施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本カプセル内視鏡学会認定指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 など

## 11. 佐賀大学医学部附属病院

<p>認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネット環境があります。</li> <li>・専攻医の勤務時間、休暇、当直、給与等の勤務条件に関しては、労働基準法を順守し、佐賀大学医学部附属病院での研修中は佐賀大学「臨時職員就業規則等」に従います。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が 57 名在籍しています。</li> <li>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</li> <li>・専門研修に必要な剖検（2018 年度実績 24 体）を行っています。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で多くの学会発表をしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・倫理委員会を設置し、定期的に行っています。</li> <li>・治験管理室を設置し、定期的に行っています。</li> <li>・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も積極的に行われています。</li> </ul>
<p>指導責任者</p>	<p>江崎 幹宏 【内科専攻医へのメッセージ】 佐賀大学内科学講座は旧佐賀医科大学における内科学講座開講以来、大講座制をとっており、現在の初期研修制度が始まる以前から、救急を含め内科の全ての領域を偏りなく学べる体制をとっていました。このノウハウはまだ残っており、その方式で育った医師が現在指導医となっていますので佐賀大学病院での内科専門研修中に可能な限り各領域の様々な疾患を経験できるように努めます。佐賀大学医学部附属病院での研修を活かし、幅広い知識・技能そして視野を備えた内科専門医を目指して下さい。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会総合内科専門医 43 名、指導医 57 名 日本消化器病学会消化器専門医 8 名 日本肝臓学会専門医 5 名 日本循環器学会循環器専門医 8 名 日本内分泌学会専門医 1 名 日本腎臓学会専門医 2 名 日本糖尿病学会専門医 3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名 日本血液学会血液専門医 7 名 日本神経学会専門医 4 名 日本アレルギー学会専門医 1 名 日本リウマチ学会 3 名 日本感染症学会専門医 2 名 日本救急医学会専門医 1 名ほか</p>
<p>外来・入院 患者数</p>	<p>外来患者 230,115 名 (延べ数) 入院患者 184,455 名 (延べ数)</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>1) 研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群のうち、ほぼ全ての疾患群を経験できます。緩和ケア治療、終末期医療等についても経験できます。</p>

	2) 研修手帳の一部の疾患を除き、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、幅広く経験することが可能です。
経験できる技術・技能	1) 内科の各専門領域に限らず、多くの診療科があります。緩和ケア治療、放射線治療、内視鏡検査・治療、インターベンショナルラジオロジーなども幅広く経験できます。 2) 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	佐賀市立富士大和温泉病院に佐賀大学医学部附属病院地域総合診療センターを開設しており、地域医療の研修が可能です。また、ご紹介いただいた患者さんを紹介元に逆紹介することも多く診療連携をとっています。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器病学会循環器専門医研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本糖尿病学会教育施設 日本肝臓学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育施設 厚生労働省設立許可法人（財）リウマチ財団 災害時リウマチ患者支援事業災害時支援協力医療機関 日本内分泌学会内分代謝科認定教育施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本臨床腫瘍研究グループ（JCOG）参加施設 日本アレルギー学会教育施設 日本人類遺伝学会・日本遺伝カウンセリング学会 臨床遺伝専門医制度研修施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本胃癌学会胃癌全国登録認定施設 日本リハビリテーション医学会研修施設 日本東洋医学会研修施設 日本臨床検査医学会専門医制度認定施設 日本感染症学会研修施設 日本感染症学会モデル研修施設 日本ペインクリニック学会指定研修施設 日本放射線腫瘍学会認定施設 日本臨床腫瘍学会専門医認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本血管造影・IVR学会指導医修練施設 日本臨床細胞学会教育研修施設 日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設 日本救急医学会指導医指定施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 日本病理学会研修認定施設 など

## 12. 社会医療法人 陽明会 小波瀬病院

認定基準 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度協力型研修指定病院です（小倉記念病院が基幹病院）</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・小波瀬病院常勤医師として勤務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，仮眠室，浴室，シャワー室，当直室が整備されています。また医局は各常勤医に個室を整備しています。</li> <li>・隣接敷地内に 24 時間保育所があり，利用可能です。</li> </ul>
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医は 1 名在籍しています（下記）</li> <li>・内科専門研修プログラム管理委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されているプログラム管理委員会との連携を図ります。</li> <li>・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（各講習会とも年に 2 回以上），医療倫理委員会は必要時随時開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域で実施される地域参加型カンファレンス等が開催される場合，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
認定基準 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち総合内科，循環器内科，呼吸器内科，膠原病内科，救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</li> </ul>
認定基準 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています。</li> <li>・倫理委員会を必要時随時開催しています。</li> <li>・治験を行っています。</li> </ul>
指導責任者	<p>医師名：染谷 一貴</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>社会医療法人陽明会小波瀬病院は JR 日豊本線 小波瀬西工大前駅から徒歩 5 分に位置した ICU4 床，HCU4 床，158 床の 7:1 一般病床，60 床の回復期病床，40 床の地域包括ケア病床の二次救急病院です。4 つの内科系診療科（内科 循環器内科 呼吸器内科 膠原病内科）と救急科により，内科領域の疾患を幅広く研修できる体制が敷かれています。救急搬入件数は年間 2,500 台を超えており，各専門内科の支援によりプライマリ・ケアから専門内科の緊急対応まで充実した研修が行えます。</p>
指導医数 （常勤医）	<p>日本呼吸器学会呼吸器指導医 1 名          日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名          日本感染症学会感染症専門医 1 名          日本糖尿病学会糖尿病専門医 1 名          日本がん治療認定医機構がん治療認定医 1 名          日本内科学会総合内科専門医 1 名          日本循環器学会認定医循環器専門医 1 名          日本リウマチ学会リウマチ専門医 1 名          臨床研修指導医 5 名          日本静脈経腸栄養学会認定教育施設指導医 1 名          日本内科学会 JMECC インストラクター 1 名</p>
外来・入院患者数	外来患者 10,290 名（1 ヶ月平均），入院患者 7,340 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾病群	きわめて稀な疾病を除いて，研修手帳（疾病群項目表）にある 13 領域のうち，内科・循環器内科・呼吸器内科・膠原病内科・救急を中心として様々な症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携また介護施設との連携なども経験できます。
学会認定施設	日本救急医学会救急科専門医指定施設

(内科系)	日本呼吸器学会関連施設 日本栄養療法推進協議会 NST 稼動施設 (J C N T) 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼動施設 (J S P E N) 日本静脈経腸栄養学会 NST 実地修練認定教育施設 (J S P E N) 一般社団法人日本リウマチ学会教育施設 一般社団法人日本がん治療認定医機構認定研修施設
-------	--



### 13. 糸島医師会病院

認定基準 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力型臨床研修病院です</li> <li>・研修に必要なインターネット環境があります</li> <li>・糸島医師会病院常勤医師として労務環境が保障されています</li> <li>・メンタルストレスを毎年チェックし適切な対処をおこなっています</li> <li>・ハラスメント委員会が設置されています</li> <li>・女性医師も安心して勤務できるように更衣室, 休憩室が整備されています</li> <li>・近隣に保育施設が複数あり利用が可能です</li> </ul>
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が3名在籍しています</li> <li>・研修委員会を定期的に開催しています</li> <li>・医療安全, 感染対策, 医療倫理その他の研修会を定期的実施し常勤医にも受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えています</li> </ul>
認定基準 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本消化器内視鏡学会指導施設です</li> <li>年間, 上部内視鏡 1,800 件以上, 下部内視鏡 1,000 件以上</li> </ul>
認定基準 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研修に必要な図書室などを整備しています</li> <li>・倫理委員会を開催しています</li> <li>・日本内科学会講演会あるいは同地方会で年間 1 演題以上の学会発表をしています</li> </ul>
指導責任者	富田 昌良 (病院長)
指導医数 (常勤医)	日本外科学会指導医 2 名, 日本乳癌学会指導医 2 名 日本大腸肛門学会指導医 1 名, 麻酔学会指導医 1 名 日本糖尿病学会指導医 1 名 日本認知症学会指導医 1 名, 日本呼吸器学会指導医 1 名
外来・入院患者数	外来患者数 (1 日平均) 68.9 人, 入院患者数 (1 日平均) 108.5 人
経験できる疾病群	きわめて稀な疾病を除いて, 研修手帳 (疾病群項目表) にある 13 領域のうち, 内科・循環器内科・呼吸器内科・膠原病内科・救急を中心として様々な症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	消化器内科の疾患に限らず, 内科一般の疾患について経験できます
経験できる地域医療・診療連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上部消化管内視鏡検査 (健診, EMR, ESD, 止血, ERCP, EST, PEG)</li> <li>・下部消化管内視鏡検査 (ポリペクトミー, EMR, 止血, ESD)</li> <li>・急性期医療を中心として, 地域に根差した医療, 病診, 病病連携などを経験できます</li> </ul>
学会認定施設 (内科系)	日本消化器内視鏡学会指導連携施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本認知症学会教育施設

## 14. 新行橋病院

認定基準 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・新行橋病院常勤医師として勤務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処するメンタルヘルスセンターがあります。</li> <li>・ハラスメント委員会が総務課に整備されています。（臨床心理士在籍）。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように女性専用の休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。</li> </ul>
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンス（医療連携会，症例検討会，循環器内科連携会）に参加し講演することに対する時間的余裕を与えます。</li> </ul>
認定基準 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち循環器内科，一般内科，呼吸器内科，救急で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。</li> <li>・倫理委員会を必要時随時開催しております。</li> <li>・治験管理室を設置し，定期的に治験を行っております。</li> <li>・日本内科学会講演会あるいは同地方会で学会発表をしています。</li> </ul>
指導責任者	古賀 英信（循環器内科主任部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 新行橋病院は，JR 日豊本線 新田原駅から徒歩 3 分に位置した 246 床の急性期病院であり，ICU4 床，HCU8 床を有した 246 床の二次救急病院です。特に循環器内科の領域に関しては心臓カテーテル件数が約 700 例，PCI 件数が約 400 例の実績があります。救急搬入件数も年間 4,000 台を超えており，プライマリ・ケアから専門内科の緊急対応まで充実した研修が行えます。
指導医数 （常勤医）	日本循環器学会循環器専門医 日本心臓血管インターベンション治療学会専門医 日本内科学会認定医 1 名
外来・入院患者数	外来患者名 3,700（1ヶ月平均） 入院患者名 440（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾病を除いて，研修手帳（疾病群項目表）にある 13 領域のうち，内科，循環器内科，呼吸器内科，消化器内科，救急を中心として様々な症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
0	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心臓血管インターベンション治療学会認定研修施設 など

## 15. 医療法人森和会 行橋中央病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<p>当病院は、臨床研修制度基幹型九州大学病院の協力施設です。また、九州大学病院の関連病院となっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常勤医師としての勤務環境、健康維持が担保されています。</li> <li>・メンタルストレスチェックが年1回施行され、メンタルヘルスの為の環境も保持されています。</li> <li>・ハラスメント委員会が設置されています。</li> <li>・女性医師が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、当直室などが整備されています。</li> <li>・研修に必要な図書室やインターネット環境があります。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<p>当院は、糖尿病・内分泌内科診療に特化した病院で、一般病床 98 床、療養病 床 50 床、合計 148 床です。常時、約 60 名の腎透析患者(外来, 入院)を有しています。リハビリ施設も完備しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻医には日本内科学会、日本糖尿病学会の会員であることを義務付け、専門医研修プログラムを作成し、学会より認定を受け、これに添った研修を行っています。</li> <li>・指導医 1 名、専門医 1 名での指導となり、毎年到達目標のチェックをします。当病院での到達不可能な若干の項目については、他病院への研修派遣をします。</li> <li>・関連学会、院内カンファレンス、地域参加型の講演会には積極的に参加を呼びかけています。</li> <li>・NSTカンファレンスを週1回開催し、栄養学的視点からも患者さんを治療、管理する修練をしています。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示されている内科領域 13 分野のうち、糖尿病・内分泌分野のみは完結的修練が出来る環境にある。その他の分野のうち、循環器、消化器、呼吸器、肝臓、脳血管、腎臓などの分野も臨床経験が可能です。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研究に必要な図書室や情報収集ツールを整備しています。</li> <li>・臨床治験・試験に必要な倫理委員会や臨床試験センター（福岡糖尿病臨床研究所）を設置しています。</li> <li>・内科学全般、特に老年医学、肥満、栄養に関連した学会発表や論文発表を積極的に指導しています。</li> </ul>
<p>指導責任者</p>	<p>梅田 文夫（院長）より一言： 当院は、行橋市のほぼ中央に位置し、北九州市小倉より JR にて約 20 分で到着出来る、人口約 7 万人の落ち着いた静かな町です。 救急医療より、透析、介護など慢性期医療まで全人的にステージ別アプローチで内科、特に生活習慣病の患者診療が修練できます。また、最近の患者さんの高齢化に伴い、フレイル、サルコペニア、サルコペニア肥満などの栄養障害を伴う患者さんの治療、管理、リハビリにも力を入れております。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会認定 2 名 日本糖尿病学会指導医 1 名、専門医 1 名 日本内分泌学会指導医 1 名、専門医 1 名 日本老年医学会指導医 1 名、専門医 1 名 日本病態栄養学会 CRC 2 名、専門医 1 名</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 約 2,300 名 (1ヶ月) 新規入院患者 約 70 名 (1ヶ月)</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>高齢者患者を中心に、前述の 7 つの分野を幅広く経験する事ができる。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>内科専門医に必要な技術、技能、評価を実際の患者で経験する事ができる。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>病院の急性期医療や慢性期医療のみならず、地域に根ざした医療（訪問医療など）、病診、病病連携を通して学べる。</p>
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本糖尿病学会認定教育施設 日本老年医学会認定教育施設 日本病態栄養学会認定教育施設</p>

## 16. 社会保険 直方病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・福岡県社会保険医療協会の正職員（常勤）として採用されます。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が3名在籍しています（下記）。</li> <li>・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2019年度実績：医療倫理3回，医療安全2回，感染対策2回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンス（2019年度実績：地元医師会フィルムカンファレンス（当院内で開催）3回，地元医師会主催研修会 月1回，直方病院主催連携カンファレンス 1回）を開催し，定期的に専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち，総合内科，消化器，循環器，代謝，呼吸器，腎臓，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2019年度実績1回）をしています。</li> <li>・倫理委員会を設置しています。（不定期に年数回）</li> <li>・専攻医の学会参加・発表を推進します。</li> </ul>
<p>指導責任者</p>	<p>平川 晴久</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>直方病院はJR直方駅から徒歩3分に位置した急性期病床88床，地域包括ケア病床18床，回復期病床50床の病院です。内科系は循環器内科を中心に，一般内科・総合内科，腎臓内科，肝臓内科，消化器内科，糖尿病・内分泌内科，血液内科，呼吸器内科があり，内科領域全般の疾患を研修できる体制になっています。直方・鞍手地区は高齢化の進んだ地域で，高齢者の救急入院も多く，介護を含めた地域との連携を，身をもって経験できます。今後ますます重要性が増す高齢者医療への視点をもった内科診療が実践できます。小さな病院ですので他科との連携も取りやすく，単なる内科修練以上の経験が積みあがります。幅広い知識・技能を備えた内科専門医を目指して欲しいと思います。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 3名，日本内科学会総合内科専門医 1名，日本消化器病学会消化器専門医 2名，日本循環器学会循環器専門医 2名，日本糖尿病学会専門医 1名，日本透析学会透析専門医 1名，日本肝臓学会肝臓専門医 1名，日本消化器内視鏡学会専門医 1名，ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>2019年度：病院全体の外来患者数 5,558名（1ヶ月平均）， 2019年度：病院全体の入院患者数 新規139名，延べ3,450名（1ヶ月平均）</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>1) 研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群のうち，ほぼ全て</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>1) 技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p> <p>2) 特に，心臓カテーテル検査・経皮的血管形成術，血液透析，消化器内視鏡検査</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>地方の中核病院であるため，在宅支援の立場から地域医療・診療連携を十分に経験できます。急性期病棟，地域包括ケア病棟および回復期病棟があり，入院から在宅までの流れを経験できます。</p>
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本内科学会教育関連病院施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会専門医指定研修関連施設 日本透析医学会認定施設</p>



## 17. 白十字病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。</li> <li>・ハラスメント委員会が整備されています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医は15名在籍しています（下記）。</li> <li>・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（診療部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）；専門医研修プログラムにて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。</li> <li>・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センター（2020年度予定）を設置します。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2018年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2020年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的に開催（2018年度実績2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンス（基幹施設：地域連携カンファレンス 年6回、地域感染防止カンファレンス 年3回、各科主催のカンファレンスなど）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センター（2020年度予定）が対応します。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも7分野以上）で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。</li> <li>・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます（上記）。</li> <li>・専門研修に必要な剖検（2017年度実績4体、2018年度2体）を行っています。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。</li> <li>・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2018年度実績4回）しています。</li> <li>・治験審査委員会を設置し、定期的にモニタリングを行っています。</li> <li>・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2017年度3演題、2019年度3演題）をしています。</li> </ul>
<p>指導責任者</p>	<p>岩瀬 正典</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>白十字病院は、福岡県福岡・糸島医療圏西部地区の中心的な急性期病院であり、近隣の福岡大学病院、当院と同じ法人グループの佐世保中央病院を連携施設として内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p> <p>主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
<p>指導医数 （常勤医）</p>	<p>日本内科学会指導医15名、日本内科学会総合内科専門医11名、日本老年医学会専門医3名、日本消化器内視鏡学会消化器専門医2名、日本循環器学会循環器専門医2名、日本糖尿病学会専門医2名、日本腎臓病学会専門医2名、日本呼吸器学会呼吸器専門医1名、日本神経学会神経内科専門医1名、ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者284名/日（平均） 入院患者416名/日（平均）</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づき</p>



能	ながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定教育関連病院 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本脳卒中学会認定専門医研修教育病院 日本老年医学会認定施設 日本病理学会研修登録施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設，など

## 18. 山形大学医学部附属病院 第3内科 糖尿病・内分泌内科

認定基準 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>山形大学医学部附属病院 病院助教として労務環境が保障されています。</li> <li>研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>メンタルストレスに適切に対処する部署（人事・労務担当）があります。</li> <li>女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。</li> <li>敷地内に院内保育所があり，利用可能です。</li> <li>週8時間の外勤が許可されております。</li> </ul>
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導医は科内に4名在籍しています。</li> <li>内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者:内科学第一講座渡辺教授）にて，他の診療科との連携を図ります。</li> <li>基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置しています。</li> <li>医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>CPC を定期的に開催（2021 年度実績 4 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>第3内科合同カンファレンス，糖尿病・内分泌代謝内科カンファレンス，症例検討会，論文抄読会を毎週開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
認定基準 3)診療経験の環境	<p>カリキュラムに示す内科領域2分野（内分泌・代謝）を網羅し，それぞれの分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>70 疾患群のうち9疾患群（少なくとも5以上の疾患群）について研修できます。</li> </ul>
認定基準 4)学術活動の環境	<p>日本内科学会，日本内分泌学会，日本糖尿病学会総会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2021 年度実績 10 演題）をしています。</p>
指導責任者	<p>諏佐 真治</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>山形大学医学部附属病院は，山形県の中心的な急性期基幹病院であり，県内の各医療圏から多数の患者が紹介され，診療を行っております。</p> <p>現在，多くの大学が糖尿病内科と内分泌内科に別れ，個々に診療を行なっている状況で，当科はいずれにも偏りなく診療を進めております。内分泌・代謝領域は，ホルモンの分泌・作用異常とそれによって引き起こされる代謝異常が「根幹」にあります。当科では，この「根幹」をしっかりと学び理解し，その上で自ら考え医療を実践できる人材を育てることを基本にしております。そして，医師の「根幹」として「人を治せる医師」を育成することを最終目標に指導していきます。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会総合内科専門医 6名 指導医 4名</p> <p>日本内分泌学会専門医数 4名 指導医 2名</p> <p>日本糖尿病学会専門医数 6名 指導医 2名</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者 1ヶ月平均約 1,050名（内新患約 50名） 入院患者年間約 100名</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある2領域（内分泌・代謝），9疾患群の症例を経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定教育施設</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p> <p>日本内分泌学会認定教育施設</p>

## 19. 熊本大学病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。</li> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・熊本大学医学部附属病院医員(内科専攻医)として勤務環境が保障されています。</li> <li>・医療の質の維持・管理・向上に継続的に取り組む組織として医療の質センターがあります。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署（保健センター，メンタルヘルス相談窓口）があります。</li> <li>・ハラスメント委員会が熊本大学に整備されています。</li> <li>・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。</li> <li>・敷地内に院内保育所があり，利用可能です。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が 93 名在籍しています。</li> <li>・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2023 年度実績 医療倫理 1 回,医療安全 2 回,感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・研修施設群合同カンファレンス（2023 年度実績 0 回）を定期的に参加し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・CPC を定期的開催（2023 年度実績 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・地域参加型のカンファレンス（2023 年度実績 5 回）を定期的開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科を除く，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2022 年度実績 13 演題）をしています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>増永</p> <p>愛子</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>熊本大学病院は，熊本県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて幅広い活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が基幹施設と連携して，質の高い内科医を育成するものです。当院内科系診療科では単に内科医を養成するだけでなく，患者背景を含めた広い視点に立って問題点を見極め，医療安全を重視し，きめ細やかな診療を実践できる医師を育成することを第一の目的とし，数多く展開している臨床研究や基礎研究に接することを通じて，医学の進歩に貢献し，日本の医療を担える医師を育成することを第二の目的としています。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 93 名，日本内科学会総合内科専門医 73 名 日本消化器病学会消化器専門医 20 名，日本循環器学会循環器専門医 19 名， 日本内分泌学会専門医 5 名，日本糖尿病学会専門医 18 名， 日本腎臓病学会専門医 20 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 21 名， 日本血液学会血液専門医 17 名，日本神経学会神経内科専門医 10 名， 日本アレルギー学会専門医（内科）0 名，日本リウマチ学会専門医 4 名， 日本感染症学会専門医 4 名，日本救急医学会救急科専門医（内科）1 名，ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 105,997 名（2022 年） 入院患者 6,732 名（2022 年）</p>

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	<p>日本内科学会認定専門研修基幹施設  日本消化器病学会認定施設  日本消化器内視鏡学会認定施設  日本肝臓学会認定施設  日本臨床腫瘍学会認定研修施設  日本消化管学会指導施設  日本カプセル内視鏡学会指導施設  日本循環器学会認定循環器専門医研修施設  植え込み型除細動器・心臓再同期療法植え込み認定施設  日本老年医学会認定施設  日本心血管インターベンション治療学会研修施設  日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設  日本糖尿病学会認定教育施設  日本内分泌学会認定教育施設  日本肥満学会認定肥満症専門病院  日本動脈硬化学会認定教育施設  日本腎臓学会研修施設  日本透析医学会認定制度認定施設  日本高血圧学会専門医認定施設  日本呼吸器学会認定施設  日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医認定施設  日本アレルギー学会認定準教育施設  日本がん治療認定医機構認定研修施設  日本感染症学会認定研修施設  日本血液学会専門医研修施設  日本臨床腫瘍学会専門医研修施設  日本リウマチ学会教育施設  日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設  日本神経学会認定教育施設  日本脳卒中学会専門医認定研修教育病院  など</p>

## 20. 福岡大学西新病院

認定基準 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。</li> <li>・ハラスメント委員会が福岡大学に整備されています。</li> <li>・福岡大学西新病院常勤医師として労務環境が保障されています。</li> <li>・女性医師も勤務しており、快適な環境整備に心掛けています。</li> </ul>
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導医が6名在籍しています。</li> <li>・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。</li> <li>・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し専攻医に受講を義務付けると共に、医療安全管理のための研修会を実施しております。</li> <li>・CPCは福岡大学病院で参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> </ul>
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器科、内分泌、代謝、呼吸器の分野で専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会にて定期的な学会発表を行っています。治験も行っています。
指導責任者	<p>森井 誠士</p> <p>【内科専門医へのメッセージ】</p> <p>福岡大学西新病院は、九州内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは、初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携し、質の高い内科医を育成するものです。また、単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>指導医数 13名 総合内科専門医 5名</p> <p>消化器学会 専門医 3名</p> <p>肝臓学会 専門医 1名</p> <p>循環器学会 専門医 6名</p> <p>内分泌学会 専門医 1名</p> <p>糖尿病学会 専門医 1名</p> <p>呼吸器学会 専門医 2名</p> <p>心血管インターベンション治療学会 専門医 1名</p> <p>不整脈心電学会 専門医 1名</p> <p>超音波医学会 専門医 1名</p> <p>消化器内視鏡学会 専門医 3名</p>
外来・入院患者数	外来 20,830名 入院 24,641名 (年間)
経験できる疾患群	きわめて稀な症例を除き、疾患群項目表にある 13 領域のうち、総合内科、消化器、循環器科、内分泌、代謝、呼吸器を中心として様々な症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢化社会に対応した地域に根差した医療、病診、病院連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定施設</p> <p>日本糖尿病学会認定施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会認定施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修認定施設</p> <p>日本不整脈学会認定施設</p> <p>日本心血管インターベンション治療学会認定施設</p> <p>日本呼吸器学会認定医制度認定施設</p>



### 3) 専門研修特別連携施設

#### 1. 医療法人博愛会 京都病院

<p>認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修に必要な図書機能とインターネット環境があります。</li> <li>・京都病院医師として労務環境が保障されています。</li> <li>・メンタルストレスに適切に対処する部署（事務室職員担当および産業医）があります。</li> <li>・ハラスメントに関する窓口が設置されています。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療安全・感染対策・褥創対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・基幹施設である飯塚病院で行う研修施設群合同カンファレンス（2021 年度予定）に定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</li> <li>・基幹施設で行う CPC、もしくは日本内科学会が企画する CPC、および地域参加型のカンファレンスの受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えています。</li> </ul>
<p>認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、循環器・神経・消化器内科・総合内科・整形外科の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会への学会発表に取り組む環境を提供します。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>京都病院 院長 中池 竜一</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>京都病院は福岡県京築医療圏の京都郡みやこ町にある病床数 174 床の病院です。病院理念は「We deliver the best～あたたかい思いやりとまごころを大切にします」で、昭和 45 年の創設以来、医療療養病院として主に急性期後回復期の診療と在宅復帰支援や慢性期長期療養患者の診療を行うことで地域医療に携わってきました。近年、医療療養病床から 40 床を地域包括ケア病床に、18 床を地域一般病床に転換し、急性期病院からの患者受け入れを迅速かつ潤滑に行えるようになり、外来からの急性期疾患患者（主に自院の在宅患者および連携医療機関の在宅患者）の入院診療も十分可能となっています。在宅復帰へ向けてのリハビリテーション治療、摂食・嚥下障害患者の嚥下リハビリテーションにも力を入れています。外来においては、循環器内科を中心に、消化器内科・脳神経内科・総合診療科の充実に努めています。</p> <p>患者層としては、入院患者のほとんどが後期高齢者で、複数の疾患が併存する病態ですので、主疾患の専門性の他に総合診療科的対応が必要となります。また、急性期病院ではなかなか実感できない急性期後の回復期および慢性期の医療の実態を経験することができます。終末期医療として緩和ケアにも取り組んでいます。重症心不全患者の慢性期医療にも力を入れ、更に心不全緩和ケアにも取り組みを進めていこうとしています。</p> <p>以上のような点から当院での研修が有意義なものになるであろうと考えます。</p>
<p>指導医数（常勤医）</p>	<p>日本内科学会総合内科専門医 3 名 日本循環器学会認定循環器専門医 3 名 日本内科学会認定内科医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 1 名 日本心血管インターベンション治療学会認定医・専門医 1 名 日本神経学会専門医 1 名 日本外科学会認定医 1 名 日本消化器内視鏡学会認定医 1 名 認定病院総合診療医 1 名</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 38 名（1 ヶ月平均） 入院患者 161 名（1 日平均）</p>
<p>病床</p>	<p>174 床（地域一般病床 18 床、地域包括ケア病床 40 床、医療療養病床 116 床）</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>研修手帳にある 13 領域、70 疾患群の症例については、高齢者・慢性長期療養</p>

	<p>患者の診療を通じて、広く経験することとなります。複数の疾患を併せ持つ高齢者の治療・全身管理・今後の療養方針の考え方などについて学ぶことができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>内科専門医に必要な技術・技能を習得できる療養病床であり、かつ地域密着型の病院という枠組みのなかで、経験していただきます。</p> <p>特に高齢者に多い重症心不全など循環器疾患には力を入れており、急性期を過ぎた療養患者の機能の評価（認知機能・嚥下機能・排泄機能などの評価）、複数の疾患を併せ持つ高齢者の診療はもちろん、緩和ケアや人工呼吸器装着・腹膜透析の在宅療養中患者に対するレスパイト入院の受け入れも行っており、患者本人のみならず家族とのコミュニケーションの在り方・かかりつけ医としての診療の在り方などが経験できます。また、病院全体で褥瘡発生ゼロを心がけ、チームアプローチを行っています。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>入院診療については、急性期病院から急性期後に転院してくる治療・療養が必要な入院患者の診療、残存機能の評価、多職種および家族と共に今後の療養方針・療養の場の決定と、その実施にむけた調整を行っています。</p> <p>在宅へ復帰する患者については、地域の病院としての外来診療と、リハビリテーション（運動器・脳血管疾患・呼吸器・心大血管疾患・がん患者リハビリテーション）との連携についても経験できます。</p>
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	

# 福岡大学筑紫病院内科専門研修管理委員会

## 福岡大学筑紫病院

小林 邦久（プログラム統括責任者，委員長，内分泌・代謝・総合内科分野責任者）

久部 高司（プログラム管理者，消化器分野責任者）

河村 彰（循環器・救急分野責任者）

石井 寛（呼吸器・感染症分野責任者）

牟田 浩（事務局代表，臨床研修センター事務担当）

## 連携施設担当委員

福岡大学病院 高松 泰

芦屋中央病院 櫻井 俊弘

いまきいれ総合病院 今給黎和幸

佐田病院 長谷川 梨乃

田川市立病院 武田 和大

田主丸中央病院 鬼塚 一郎

戸畑共立病院 宗 祐人

福岡青洲会病院 中里 未央

九州中央病院 竹迫 仁則

長崎県壱岐病院 大西 康

佐賀大学医学部附属病院 江崎 幹宏

小波瀬病院 染谷 一貴

糸島医師会病院 富田 昌良

新行橋病院 古賀 英信

行橋中央病院 梅田 文夫

社会保険直方病院 平川 晴久

白十字病院 岩瀬 正典

## オブザーバー

小川 賢樹（管理課長）

原野 優樹（管理課長補佐）

飯田 伊純（管理課）

# 福岡大学筑紫病院内科専門研修プログラム 専攻医研修マニュアル

## 1) 専門研修後の医師像と修了後に想定される勤務形態や勤務先

内科専門医の使命は、(1) 高い倫理観を持ち、(2) 最新の標準的医療を実践し、(3) 安全な医療を心がけ、(4) プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。

内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが、それぞれの場に応じて、

- ① 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
- ② 内科系救急医療の専門医
- ③ 病院での総合内科の専門医（Generalist）
- ④ 総合内科的視点を持った Subspecialist

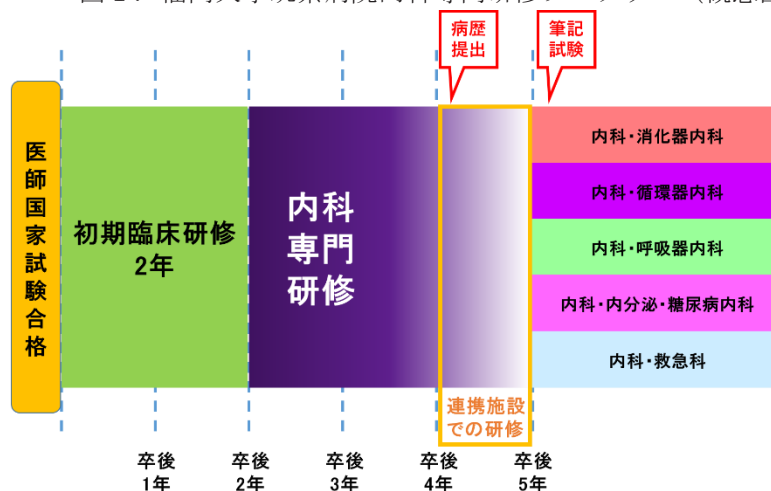
に合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得します。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります。

福岡大学筑紫病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と General なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして、福岡県筑紫医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また、希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果です。

福岡大学筑紫病院内科専門研修プログラム終了後には、福岡大学筑紫病院内科施設群専門研修施設群（下記）だけでなく、専攻医の希望に応じた医療機関で常勤内科医師として勤務する、または希望する大学院などで研究者として働くことも可能です。

## 2) 専門研修の期間

図 1. 福岡大学筑紫病院内科専門研修プログラム（概念図）



基幹施設である福岡大学筑紫病院内科で、専門研修（専攻医）1年目、2年目に2年間の専門研修を行います。

3) 研修施設群の各施設名 (P.14「福岡大学筑紫病院研修施設群」参照)

- 基幹施設： 福岡大学筑紫病院  
 連携施設： 福岡大学病院  
 福岡大学西新病院  
 今給黎総合病院  
 田川市立病院  
 戸畑共立病院  
 芦屋中央病院  
 佐田病院  
 田主丸中央病院  
 福岡青洲会病院  
 九州中央病院  
 長崎県老岐病院  
 佐賀大学医学部附属病院  
 熊本大学病院  
 山形大学医学部附属病院  
 糸島医師会病院  
 小波瀬病院  
 行橋中央病院  
 新行橋病院  
 社会保険 直方病院  
 白十字病院  
 特別連携施設： 京都病院

4) プログラムに関わる委員会と委員

福岡大学筑紫病院内科専門研修管理委員会と委員名 (P.51「福岡大学筑紫病院内科専門研修管理委員会」参照)

5) 各施設での研修内容と期間

専攻医2年目の秋に専攻医の希望・将来像, 研修達成度およびメディカルスタッフによる360度評価(内科専門研修評価)などを基に, 専門研修(専攻医)3年目の研修施設を調整し決定します。病歴提出を終える専門研修(専攻医)3年目の1年間, 連携施設, 特別連携施設で研修をします(図1)。

6) 本整備基準とカリキュラムに示す疾患群のうち主要な疾患の年間診療件数

基幹施設である福岡大学筑紫病院診療科別診療実績を以下の表に示します。福岡大学筑紫病院は地域基幹病院であり, コモンディージーズを中心に診療しています。

2023年度実績	入院患者実数 (人/年度)	外来延患者数 (延人数/年度)
消化器内科	2,505	32,262
循環器内科・腎臓内科	751	8,573
内分泌内科・糖尿病内科	269	12,389
腎臓内科	17	1,243
呼吸器内科	601	6,744
脳神経内科	339	4,648
血液内科・膠原病科	0	0
救急科	13	410

- \* 血液, 膠原病, 神経内科は当院に設置されていませんが, 連携施設で外来患者診療を含め, 十分な症例を経験可能です。
- \* 総合内科, 消化器, 循環器, 内分泌・糖尿病, 腎臓, 呼吸器, 救急領域の専門医が少なくとも1名以上在籍しています (P.14「福岡大学筑紫病院内科専門研修施設群」参照)。



\* 剖検体数は2022年度3体, 2023年度3体です.

## 7) 年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安

Subspecialty 領域に拘泥せず, 内科として入院患者を順次担当医として担当します.  
担当医として, 入院から退院(初診・入院～退院・通院)まで可能な範囲で経時的に, 診断・治療の流れを通じて, 一人一人の患者の全身状態, 社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します.

入院患者担当の目安: 各先生方が初期研修時に経験した症例を基に個別に専攻医 1,2 年目のローテーションが決定されます.

当該月に以下の主たる病態を示す入院患者を担当医として退院するまで受け持ちます.

専攻医 1 人あたりの受け持ち患者数は, 重症度などを加味して, 担当指導医, Subspecialty 上級医の判断で 5～10 名程度とします. 感染症, 総合内科分野は, 適宜, 領域横断的に受け持ちます.

(基幹施設: 例 福岡大学筑紫病院 消化器内科に入院した場合)

	専攻医 1 年目	専攻医 2 年目
4 月	消化器	循環器・腎臓
5 月	消化器	循環器・腎臓
6 月	消化器	消化器
7 月	消化器	消化器
8 月	消化器	内分泌・代謝・糖尿病
9 月	消化器	内分泌・代謝・糖尿病
10 月	消化器	消化器
11 月	消化器	消化器
12 月	消化器	救急科
1 月	消化器	救急科
2 月	消化器	呼吸器・感染症
3 月	消化器	呼吸器・感染症

\* 1 年目の 4 月に循環器・腎臓領域で入院した患者を退院するまで担当医として診療にあたります. 7 月には退院していない循環器・腎臓領域の患者とともに代謝・内分泌領域で入院した患者を退院するまで担当医として診療にあたります. これを繰り返して内科領域の患者を分け隔てなく, 担当医として診療します.

## 8) 自己評価と指導医評価, ならびに 360 度評価を行う時期とフィードバックの時期

毎年 8 月と 2 月とに自己評価と指導医評価, ならびに 360 度評価を行います. 必要に応じて臨時に行うことがあります.

評価終了後, 1 か月以内に担当指導医からのフィードバックを受け, その後の改善を期して最善をつくします. 2 回目以降は, 以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて, 担当指導医からのフィードバックを受け, さらに改善するように最善をつくします.

## 9) プログラム修了の基準

① 日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて, 以下の i)～vi) の修了要件を満たすこと.

i) 担当医として「[研修手帳\(疾患群項目表\)](#)」に定める全 70 疾患群を経験し, 計 200 症例以上(外来症例は 20 症例まで含むことができます)を経験することを目標とします. その研修内容を日本内科学会専攻医登録評価システムに登録します. 修了認定には, 担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例(外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます)を経験し, 登録済みです(P.59 別表 1「福岡大学筑紫病院疾患群 症例 病歴要約到達目標」参照).

ii) 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後に受理されています.

- iii) 学会発表あるいは論文発表を筆頭者で2件以上あります。
- iv) JMECC 受講歴が1回あります。
- v) 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会を年に2回以上受講歴があります。
- vi) 日本内科学会専攻医登録評価システムを用いてメディカルスタッフによる360度評価(内科専門研修評価)と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性があると認められます。

- ② 当該専攻医が上記修了要件を充足していることを福岡大学筑紫病院内科専門医研修管理委員会は確認し、研修期間修了約1か月前に福岡大学筑紫病院内科専門医研修管理委員会で合議のうえ、統括責任者が修了判定を行います。

〈注意〉「[研修カリキュラム項目表](#)」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は3年間(基幹施設2年間+連携・特別連携施設1年間)とするが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を1年単位で延長することがあります。

## 10) 専門医申請にむけての手順

- ① 必要な書類
  - i) 日本専門医機構が定める内科専門医認定申請書
  - ii) 履歴書
  - iii) 福岡大学筑紫病院内科専門医研修プログラム修了証(コピー)
- ② 提出方法
 

内科専門医資格を申請する年度の5月末日までに日本専門医機構内科領域認定委員会に提出します。
- ③ 内科専門医試験
 

内科専門医資格申請後に日本専門医機構が実施する「内科専門医試験」に合格することで、日本専門医機構が認定する「内科専門医」となります。

## 11) プログラムにおける待遇、ならびに各施設における待遇

在籍する研修施設での待遇については、各研修施設での待遇基準に従う(P.14「福岡大学筑紫病院研修施設群」参照)。

## 12) プログラムの特色

- ① 本プログラムは、福岡県筑紫医療圏の中心的な急性期病院である福岡大学筑紫病院を基幹施設として、福岡県筑紫医療圏、近隣医療圏および鹿児島・熊本・山形にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます。研修期間は基幹施設2年間+連携施設・特別連携施設1年間の3年間です。
- ② 福岡大学筑紫病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院(初診・入院～退院・通院)まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。
- ③ 基幹施設である福岡大学筑紫病院は、福岡県筑紫医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域医療支援病院であり病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモディーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所(在宅訪問診療施設などを含む)との病診連携も経験できます。
- ④ 基幹施設である福岡大学筑紫病院での2年間(専攻医2年修了時)で、「[研修手帳\(疾患群項目表\)](#)」に定められた70疾患群のうち、少なくとも通算で45疾患群、120症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システムに登録できます。そして、専攻医2年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる29症例の病歴要約を作成できます(P.59別表1「福岡大学筑紫病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照)。
- ⑤ 福岡大学筑紫病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、専門研修3年目の1年間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。

⑥ 基幹施設である福岡大学筑紫病院での2年間と専門研修施設群での1年間（専攻医3年修了時）で、「[研修手帳（疾患群項目表）](#)」に定められた70疾患群，200症例以上の主担当医としての診療経験を目標とします（P.59別表1「福岡大学筑紫病院疾患群 症例病歴要約 到達目標」参照）。少なくとも通算で56疾患群，160症例以上を主担当医として経験し，日本内科学会専攻医登録評価システムに登録します。

13) 継続した Subspecialty 領域の研修の可否

- カリキュラムの知識，技術・技能を深めるために，総合内科外来（初診を含む），Subspecialty 診療科外来（初診を含む），Subspecialty 診療科検査を担当します。結果として，Subspecialty 領域の研修につながることはあります。
- カリキュラムの知識，技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識，技術・技能研修を開始させます。

14) 逆評価の方法とプログラム改良姿勢

専攻医は日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は毎年8月と2月とに行います。その集計結果は担当指導医，施設の研修委員会，および管理委員会が閲覧し，集計結果に基づき，福岡大学筑紫病院内科専門研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

15) 研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

16) その他

特になし

# 福岡大学筑紫病院内科専門研修プログラム

## 指導医マニュアル

- 1) 専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割
  - 1人の担当指導医（メンター）に専攻医1人が福岡大学筑紫病院内科専門研修管理委員会により決定されます。
  - 担当指導医は、専攻医が web にて日本内科学会専攻医登録評価システムにその研修内容を登録するので、その履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
  - 担当指導医は、専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群・症例の内容について、都度、評価・承認します。
  - 担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センター（仮称）からの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医は Subspecialty の上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医と Subspecialty の上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるように、主担当医の割り振りを調整します。
  - 担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し、知識・技能の評価を行います。
  - 担当指導医は専攻医が専門研修（専攻医）2年修了時までに合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理されるように病歴要約について確認し、形式的な指導を行います。
  
- 2) 専門研修の期間
  - 年次到達目標は、P.59 別表 1「福岡大学筑紫病院内科専門研修において求められる「疾患群」、 「症例数」、 「病歴提出数」について」に示すとおりです。
  - 担当指導医は、臨床研修センターと協働して、3か月ごとに研修手帳 Web 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による研修手帳 Web 版への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
  - 担当指導医は、臨床研修センターと協働して、6か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
  - 担当指導医は、臨床研修センターと協働して、6か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
  - 担当指導医は、臨床研修センターと協働して、毎年 8 月と 2 月とに自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行います。評価終了後、1か月以内に担当指導医は専攻医にフィードバックを行い、形式的に指導します。2回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医はフィードバックを形式的に行って、改善を促します。
  
- 3) 専門研修の期間
  - 担当指導医は Subspecialty の上級医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価を行います。
  - 研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録に基づいて、当該患者の電子カルテの記載、退院サマリー作成の内容などを吟味し、主担当医として適切な診療を行っている第三者が認めうると判断する場合に合格とし、担当指導医が承認を行います。
  - 主担当医として適切に診療を行っている認められない場合には不合格として、担当指導医は専攻医に研修手帳 Web 版での当該症例登録の削除、修正などを指導します。
  
- 4) 日本内科学会専攻医登録評価システムの利用方法  
専攻医による症例登録と担当指導医が合格とした際に承認します。
  - 担当指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフによる 360 度評価および専攻医による逆評価などを専攻医に対する形式的フィードバックに用います。
  - 専攻医が作成し、担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全 29 症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認します。
  - 専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を専攻医がアクセプトされるまでの状況を確認します。
  - 専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録、出席を求められる講習会等の記録について、各専

攻医の進捗状況をリアルタイムで把握します。担当指導医と臨床研修センターはその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します。

- 担当指導医は、日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて研修内容を評価し、修了要件を満たしているかを判断します。

5) 逆評価と日本内科学会専攻医登録評価システムを用いた指導医の指導状況把握

専攻医による日本内科学会専攻医登録評価システムを用いた無記名式逆評価の集計結果を、担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します。集計結果に基づき、福岡大学筑紫病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

6) 指導に難渋する専攻医の扱い

必要に応じて、臨時（毎年8月と2月とにある予定の他に）で、日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて専攻医自身の自己評価、担当指導医による内科専攻医評価およびメディカルスタッフによる360度評価（内科専門研修評価）を行い、その結果を基に福岡大学筑紫病院内科専門研修管理委員会で協議を行い、専攻医に対して形式的に適切な対応を試みます。状況によっては、担当指導医の変更や在籍する専門研修プログラムの異動勧告などを行います。

7) プログラムならびに各施設における指導医の待遇

福岡大学筑紫病院給与規定によります。

8) 指導者研修（FD）講習の出席義務

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。

FDの実施記録として、日本内科学会専攻医登録評価システムを用います。

9) 日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」の活用

内科専攻医の指導にあたり、指導法の標準化のため、日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を熟読し、形式的に指導します。

10) 研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

11) その他

特になし。



別表1 各年次到達目標

	内容	専攻医3年修了時カリキュラムに示す疾患群	専攻医3年修了時修了要件	専攻医2年修了時経験目標	専攻医1年修了時経験目標	※5 病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ(一般)	1	1 <sup>※2</sup>	1		2
	総合内科Ⅱ(高齢者)	1	1 <sup>※2</sup>	1		
	総合内科Ⅲ(腫瘍)	1	1 <sup>※2</sup>	1		
	消化器	9	5以上 <sup>※1※2</sup>	5以上 <sup>※1</sup>		3 <sup>※1</sup>
	循環器	10	5以上 <sup>※2</sup>	5以上		3
	内分泌	4	2以上 <sup>※2</sup>	2以上		3 <sup>※4</sup>
	代謝	5	3以上 <sup>※2</sup>	3以上		
	腎臓	7	4以上 <sup>※2</sup>	4以上		2
	呼吸器	8	4以上 <sup>※2</sup>	4以上		3
	血液	3	2以上 <sup>※2</sup>	2以上		2
	神経	9	5以上 <sup>※2</sup>	5以上		2
	アレルギー	2	1以上 <sup>※2</sup>	1以上		1
	膠原病	2	1以上 <sup>※2</sup>	1以上		1
	感染症	4	2以上 <sup>※2</sup>	2以上		2
	救急	4	4 <sup>※2</sup>	4		2
	外科紹介症例					2
	剖検症例					1
	合計 <sup>※5</sup>	70 疾患群	56 疾患群 (任意選択含む)	45 疾患群 (任意選択含む)	20 疾患群	29 症例 (外来は最大7) ※3
	症例数 <sup>※5</sup>	200 以上 (外来は最大20)	160 以上 (外来は最大16)	120 以上	60 以上	

- ※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。
- ※2 修了要件に示した分野の合計は41疾患群だが、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする。
- ※3 外来症例による病歴要約の提出を7例まで認める。(全て異なる疾患群での提出が必要)
- ※4 「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。  
例)「内分泌」2例+「代謝」1例、「内分泌」1例+「代謝」2例
- ※5 初期臨床研修時の症例は、例外的に各専攻医プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる。

別表 2  
 福岡大学筑紫病院内科専門研修 週間スケジュール  
 (循環器内科 循環器・腎臓分野)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土・日曜日
午前	入院患者 診療	入院患者 診療	心カテ・PCI	入院患者 診療  あるいは 腎臓内科 外来診療	入院患者 診療	担当患者の病 状に応じた 診療/オンコ ール/日当直/ 講習会・学会 参加など
午後	カンファレ ンス  抄読会  回診  カテ前カン ファレンス	入院患者 診療	心カテ・PCI	入院患者 診療 レクチャー	EPS・アブ レーション	
担当患者の病態に応じた診療・オンコール・当直など						

★ 福岡大学筑紫病院内科専門研修プログラム

4. 専門知識・専門技能の習得計画に従い、内科専門研修を实践します。

- 上記はあくまでも例：概略です。
- 内科および各診療科（Subspecialty）のバランスにより、担当する業務の曜日，時間帯は調整・変更されます。
- 入院患者診療には，内科と各診療科（Subspecialty）などの入院患者の診療を含みます。
- 日当直やオンコールなどは，内科もしくは各診療科（Subspecialty）の当番として担当します。
- 地域参加型カンファレンス，講習会，CPC，学会などは各々の開催日に参加します。

福岡大学筑紫病院内科専門研修 週間スケジュール  
(内分泌・糖尿病内科 内分泌・代謝分野)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土・日曜日
午前	入院患者 診療  あるいは 総合内科 外来診療	入院患者 診療  レクチャー	入院患者 診療	入院患者 診療  レクチャー	入院患者 診療  あるいは 内分泌・ 糖尿病内科 外来診療	担当患者の病 状に応じた 診療/オンコ ール/日当直/ 講習会・学会 参加など
午後	入院患者 診療	入院患者 診療	糖尿病教室 レクチャー  甲状腺 エコー・ 穿刺細胞診	レクチャー カンファレ ンス  抄読会 回診	入院患者 診療  レクチャー	
担当患者の病態に応じた診療・オンコール・当直など						

★ 福岡大学筑紫病院内科専門研修プログラム 4. 専門知識・専門技能の習得計画に従い、内科専門研修を实践します。

- 上記はあくまでも例：概略です。
- 内科および各診療科（Subspecialty）のバランスにより、担当する業務の曜日、時間帯は調整・変更されます。
- 入院患者診療には、内科と各診療科（Subspecialty）などの入院患者の診療を含みます。
- 日当直やオンコールなどは、内科もしくは各診療科（Subspecialty）の当番として担当します。
- 地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などは各々の開催日に参加します。

福岡大学筑紫病院内科専門研修 週間スケジュール  
(呼吸器内科 呼吸器・感染症分野)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土・日曜日
午前	入院患者の 検討・診療  感染カンファ レンス	入院患者の 検討・診療  外来診療	入院患者の 検討・診療  感染カンファ レンス	入院患者の 検討・診療	入院患者の 検討・診療  外来診療	
午後	入院患者の 診療  回診	呼吸機能検 査  気管支鏡検 査  AST ラウン ド	呼吸器カン ファレンス  合同カンファ レンス  気管支鏡検 査	入院患者の 診療  気管支鏡検 査  多職種カン ファレンス	入院患者の 診療  ICT/AST ラ ウンド  レクチャー  勉強会	担当患者の病 状に応じた 診療/オンコ ール/日当直/ 講習会・学会 参加など
担当患者の病態に応じた診療・オンコール・当直など						

★ 福岡大学筑紫病院内科専門研修プログラム

4. 専門知識・専門技能の習得計画に従い、内科専門研修を実践します。

- 上記はあくまでも例：概略です。
- 内科および各診療科（Subspecialty）のバランスにより、担当する業務の曜日、時間帯は調整・変更されます。
- 入院患者診療には、内科と各診療科（Subspecialty）などの入院患者の診療を含みます。
- 日当直やオンコールなどは、内科もしくは各診療科（Subspecialty）の当番として担当します。
- 地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などは各々の開催日に参加します。

福岡大学筑紫病院内科専門研修 週間スケジュール  
(消化器内科 消化器分野)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土・日曜日
午前	内視鏡実習	透視実習	腹部エコー 実習  RFA・静脈 瘤講義	内視鏡実習  上部消化管 (ESD)講義	胆膵内視鏡 実習	担当患者の病 状に応じた 診療/オンコ ール/日当直/ 講習会・学会 参加など
午後	上部消化管 (食道・胃) 実習・講義  肝臓カンファ レンス	IBD 教室・ 講義  消化管カン ファレンス  回診	ERCP・ PTBD 実習  胆膵疾患講 義	小腸疾患講 義	ERCP・ PTBD 実習  下部消化管 実習・講義	
	担当患者の病態に応じた診療・オンコール・当直など					

★ 福岡大学筑紫病院内科専門研修プログラム

4. 専門知識・専門技能の習得計画に従い、内科専門研修を実践します。

- 上記はあくまでも例：概略です。
- 内科および各診療科 (Subspecialty) のバランスにより、担当する業務の曜日、時間帯は調整・変更されます。
- 入院患者診療には、内科と各診療科 (Subspecialty) などの入院患者の診療を含みます。
- 日当直やオンコールなどは、内科もしくは各診療科 (Subspecialty) の当番として担当します。
- 地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などは各々の開催日に参加します。



福岡大学筑紫病院内科専門研修 週間スケジュール  
(救急部 救急分野)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土・日曜日
午前	救急初期診療・病棟管理	救急初期診療・病棟管理	救急初期診療・病棟管理	救急初期診療・病棟管理	救急初期診療・病棟管理	担当患者の病状に応じた診療/オンコール/日当直/講習会・学会参加など
午後	救急初期診療・病棟管理	カンファレンス 抄読会 回診	救急初期診療・病棟管理	救急初期診療・病棟管理	救急初期診療・病棟管理	
	オンコール・当直など					

★ 福岡大学筑紫病院内科専門研修プログラム

4. 専門知識・専門技能の習得計画に従い、内科専門研修を実践します。

- 上記はあくまでも例：概略です。
- 内科および各診療科（Subspecialty）のバランスにより、担当する業務の曜日，時間帯は調整・変更されます。
- 入院患者診療には，内科と各診療科（Subspecialty）などの入院患者の診療を含みます。
- 日当直やオンコールなどは，内科もしくは各診療科（Subspecialty）の当番として担当します。
- 地域参加型カンファレンス，講習会，CPC，学会などは各々の開催日に参加します。